

北陸地域における地場産野菜の供給量(R5)

ごく僅か (10%以下↓)		少ない (10~20%)		やや少ない (20~30%)		普通 (30%以上↑)	
ばれいしょ	2%	にんじん	11%	トマト	24%	ブロッコリー	36%
たまねぎ	7%	ミニトマト	11%	だいこん	26%	ねぎ	38%
キャベツ	9%	ほうれんそう	15%	きゅうり	26%	さといも	87%
						えだまめ	88%

北陸地域への主要野菜移入量(高収益作物としての出口考察) (未定稿)

品名	全国と北陸出荷の対比			北陸域内市場での域内・域外出荷の対比				他県産シェア (上位3県)	北陸管内から各地域出荷事例	注目ポイント
	全国市場での 取扱数量	北陸域内(4 県)からの出 荷数量	シェア	北陸域内市場 での取扱数量	北陸域内(4 県)からの入 荷数量	シェア	域外からの入 荷数量			
(露地系)										
たまねぎ	579,153	3,093	1%	16,080	1,058	7%	15,022	93%	富山県(1,795ト) → ①東海(827ト/46%),②関東(596ト/33%),③北陸(285ト/16%) 新潟県(802ト) → ①北陸(515ト/64%),②関東(278ト/35%)	富山県産は、域内出荷(285ト)より東海(827ト)、関東(596ト)を重視。
にんじん	297,248	1,140	0%	7,842	882	11%	6,960	89%	新潟県(708ト) → ①北陸(531ト/75%),②関東(164ト/23%) 福井県(201ト) → ①北陸(185ト/92%),②近畿(16ト/8%)	新潟県産、福井県産のほとんどが域内出荷。
ねぎ	137,357	2,586	2%	2,952	1,136	38%	1,816	62%	新潟県(1,528ト) → ①北陸(725ト/48%),②関東(711ト/47%),③東海(50ト/3%),④近畿(37ト/2%) 福井県(547ト) → ①北陸(256ト/47%),②近畿(158ト/29%),③東海(133ト/24%)	新潟県産、福井県産のそれぞれ半数程度が域内出荷。
だいこん	415,211	6,702	2%	8,735	2,250	26%	6,485	74%	石川県(4,257ト) → ①近畿(3,073ト/72%),②北陸(1,094ト/26%) 新潟県(2,100ト) → ①北陸(984ト/47%),②東海(570ト/27%),③近畿(509ト/24%)	石川県産は、域内出荷(1,094ト)より近畿(3,073ト)を重視。
キャベツ	655,494	1,701	0%	13,547	1,149	8%	12,398	92%	新潟県(985ト) → ①北陸(969ト/98%),②関東(10ト/1%),東海(6ト/1%) 福井県(315ト) → ①近畿(278ト/90%),②九州(20ト/6%),③北陸(11ト/4%) 石川県(305ト) → ①北陸(169ト/55%),②近畿(136ト/45%)	新潟県産はほとんどが域内出荷。 福井県産は域内出荷(11ト)より近畿(278ト)を重視。
ばれいしょ	311,564	212	0%	8,326	170	2%	8,156	98%	新潟県(156ト) → ①北陸(130ト/83%),②関東(26ト/17%)	新潟県産のほとんどが域内出荷。
さといも	23,013	1,711	7%	895	783	87%	112	13%	新潟県(1,063ト) → ①北陸(438ト/41%),②東北(344ト/32%),③関東(244ト/23%) 福井県(569ト) → ①北陸(285ト/50%),②東海(181ト/32%),③近畿(81ト/14%),④関東(22ト/4%)	福井県産の半数程度が域内出荷。

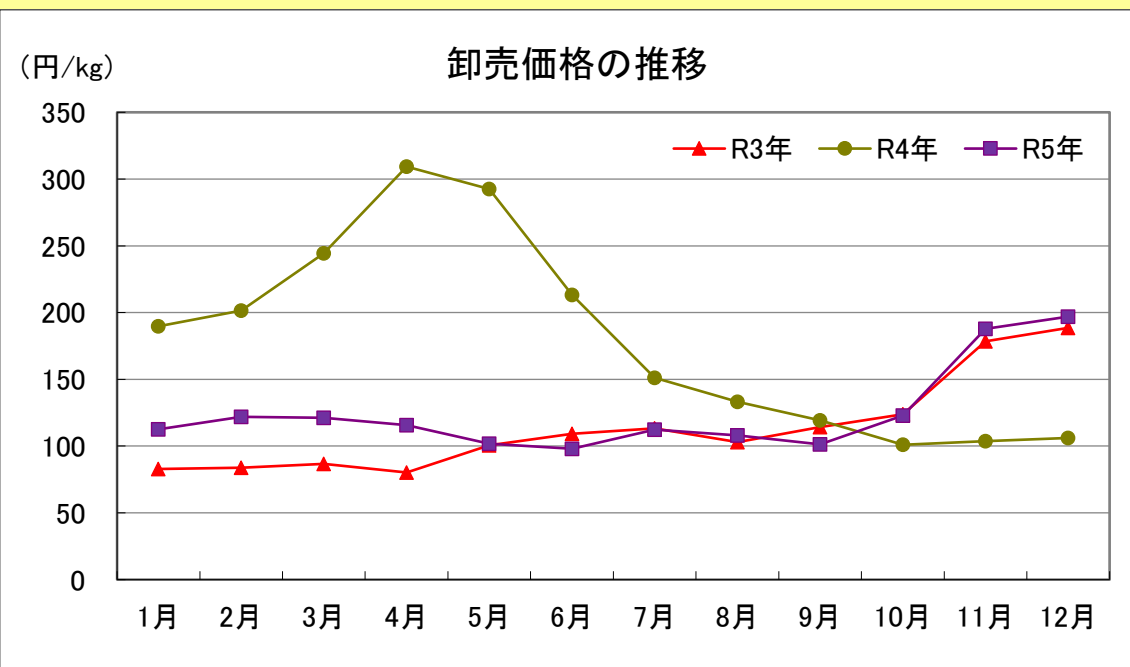
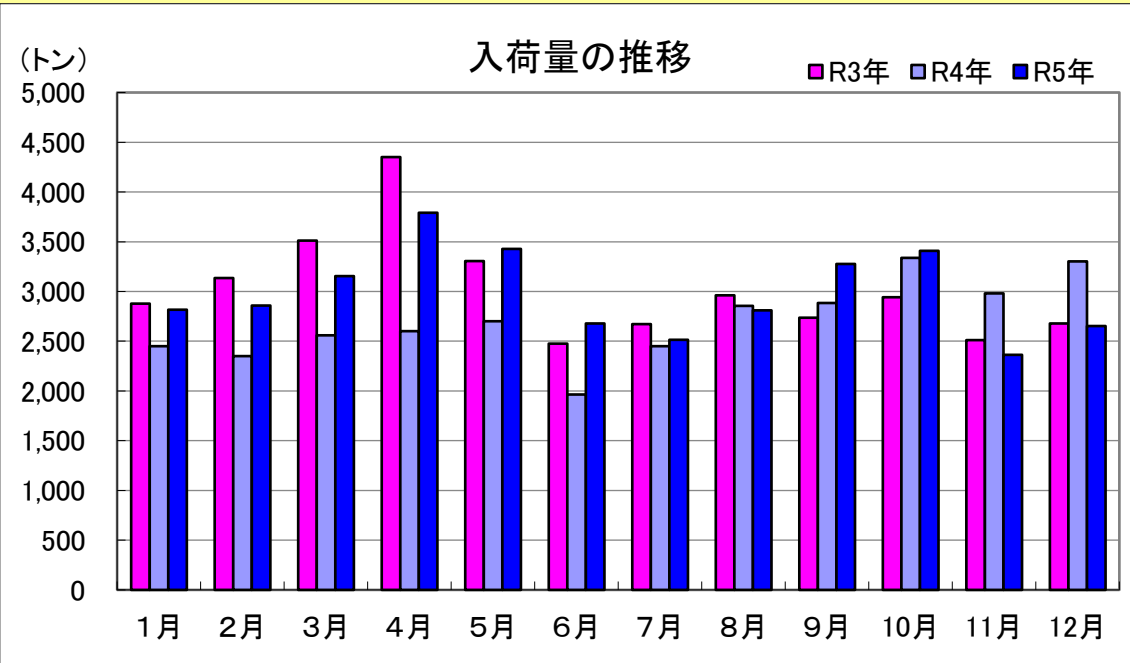
品名	全国と北陸出荷の対比			北陸域内市場での域内・域外出荷の対比				他県産シェア (上位3県)	北陸管内から各地域出荷事例	注目ポイント
	全国市場での 取扱数量	北陸域内(4 県)からの出 荷数量	シェア	北陸域内市場 での取扱数量	北陸域内(4 県)からの入 荷数量	シェア	域外からの入 荷数量			
(施設園芸系)										
トマト	215,857	2,543	1%	6,155	1,492	24%	4,663	76%	石川県(1,637ト) → ①北陸(911ト/56%),②近畿(679ト/42%),③東海(23ト/1%) 福井県(512ト) → ①近畿(267ト/52%),②北陸(193ト/38%),③関東(45ト/9%) 新潟県(391ト) → ①北陸(388ト/99%),②関東(3ト/1%)	新潟県産においてはほとんどが域内出荷。福井県産においては半数程度を近畿へ出荷。
ミニトマト	74,282	293	0%	2,237	249	11%	1,988	89%	新潟県(234ト) → ①北陸(199ト/85%),②関東(34ト/15%) 石川県(51ト) → ①北陸(49ト/96%),②近畿(2ト/4%)	新潟県産、石川県産のほとんどが域内出荷。
ほうれんそう	51,711	301	1%	1,947	232	12%	1,715	88%	石川県(123ト) →①北陸(123ト/100%) 新潟県(118ト) →①北陸(107ト/88%),②関東(14ト/12%)	新潟県、石川県のほとんどが域内出荷。
きゅうり	247,034	2,045	1%	6,195	1,600	26%	4,595	74%	石川県(996ト) → ①北陸(776ト/78%),②近畿(160ト/16%),③東海(31ト/3%),④関東(28ト/3%) 新潟県(907ト) → ①北陸(748ト/82%),②関東(124ト/14%),③近畿(30ト/3%) 福井県(142ト) → ①北陸(76ト/54%),②近畿(66ト/46%)	石川県、新潟県においてはほとんどが、福井県においては半数程度が域内出荷。
えだまめ	9,041	724	8%	325	287	88%	38	12%	新潟県(640ト) → ①関東(306ト/48%),②北陸(278ト/43%),③東海(38ト/6%),④近畿(18ト/3%) 富山県(43ト) → ①東海(33ト/77%),②関東(5ト/11%),③近畿(3ト/7%),④北陸(2ト/5%) 福井県(34ト) →①近畿(34ト/100%)	新潟県は関東と域内にそれぞれ半数程度出荷。富山県は東海、福井県は近畿にそれぞれ高い割合で出荷。
ブロッコリー	89,771	1,626	2%	2,189	778	36%	1,411	64%	石川県(1,044ト) → ①北陸(492ト/47%),②東海(270ト/26%),③近畿(187ト/18%),④関東(95ト/9%) 新潟県(548ト) →①関東(291ト/53%),②北陸(257ト/47%)	石川県、新潟県において半数程度が域内出荷。

(出典) 令和5年青果物卸売市場調査報告

たまねぎの動向

○年により差があるものの、入荷量は3月から5月にかけて多くなっている。

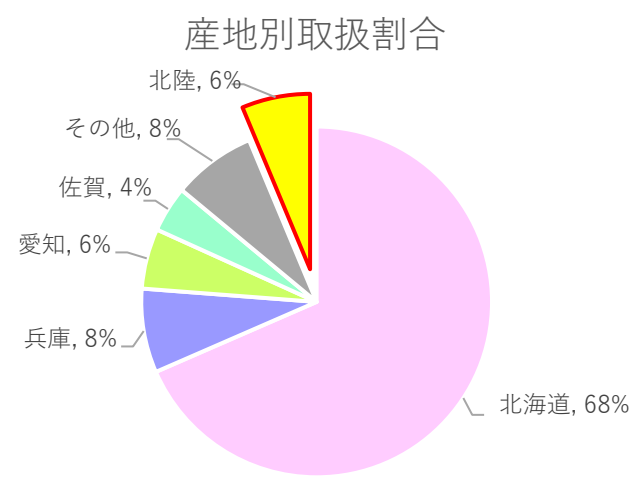
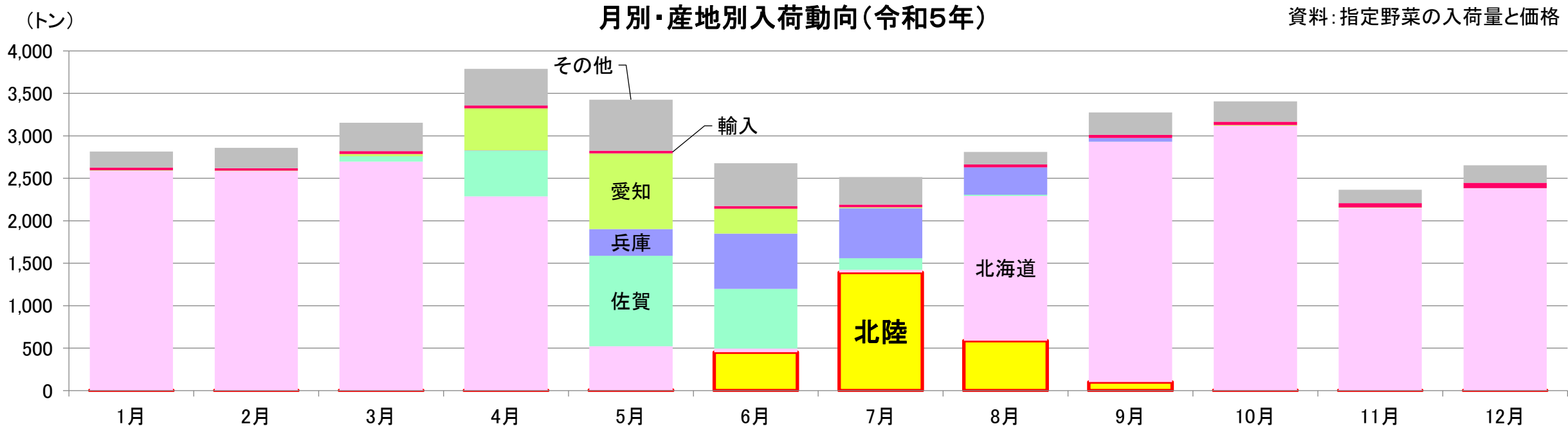
○令和4年は、主産地の北海道産が干ばつの影響等により、令和3年秋以降の入荷量が減少し、卸売価格が高騰した。



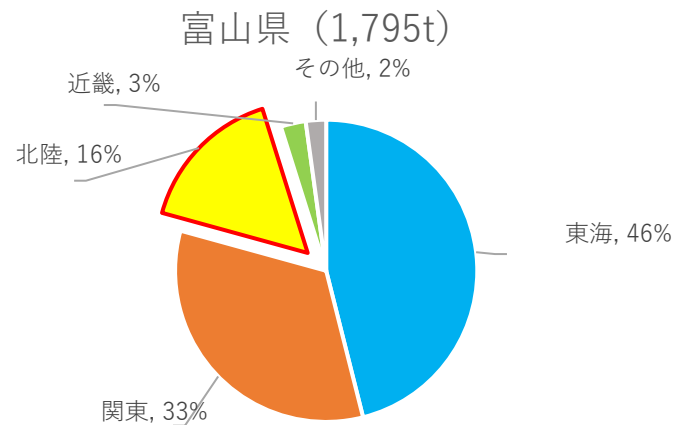
全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
579千トン	16.1千トン	7%	93%

○入荷量は、北海道産が約7割を占めている。また、北陸地域からのたまねぎの供給比率は6%となっている。

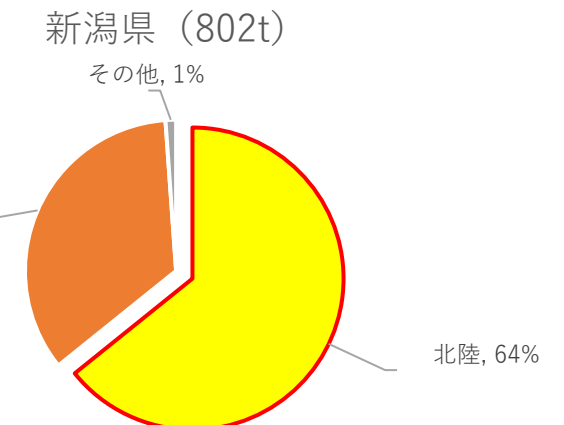
○富山産は、東海へ約5割、関東へ約3割ずつ出荷され、新潟産は約3分の2が北陸地域に出荷されている。



(参考) 主要消費地域への出荷量



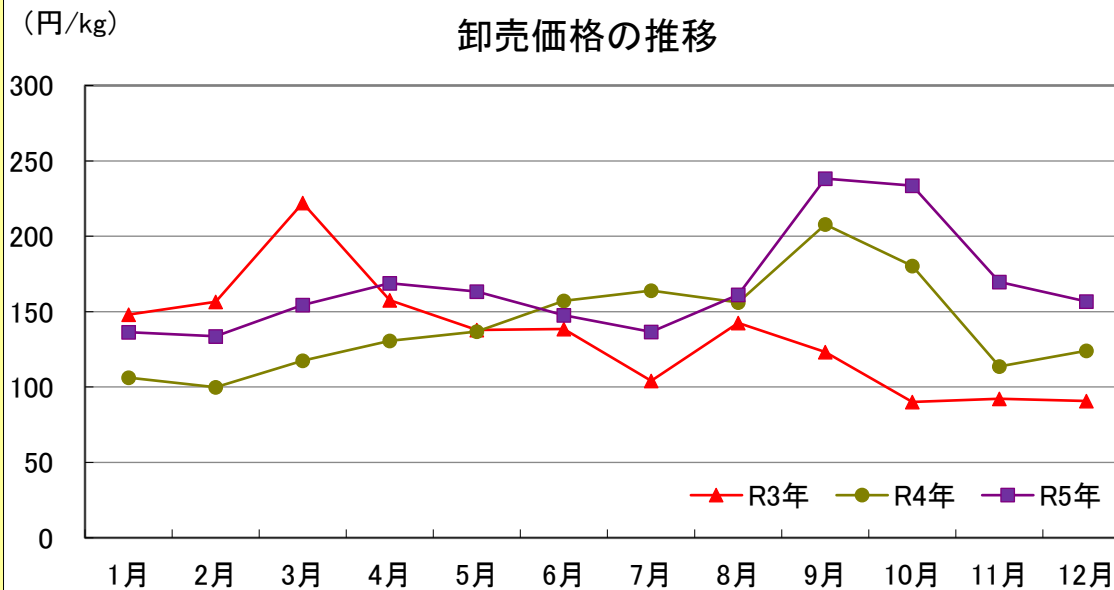
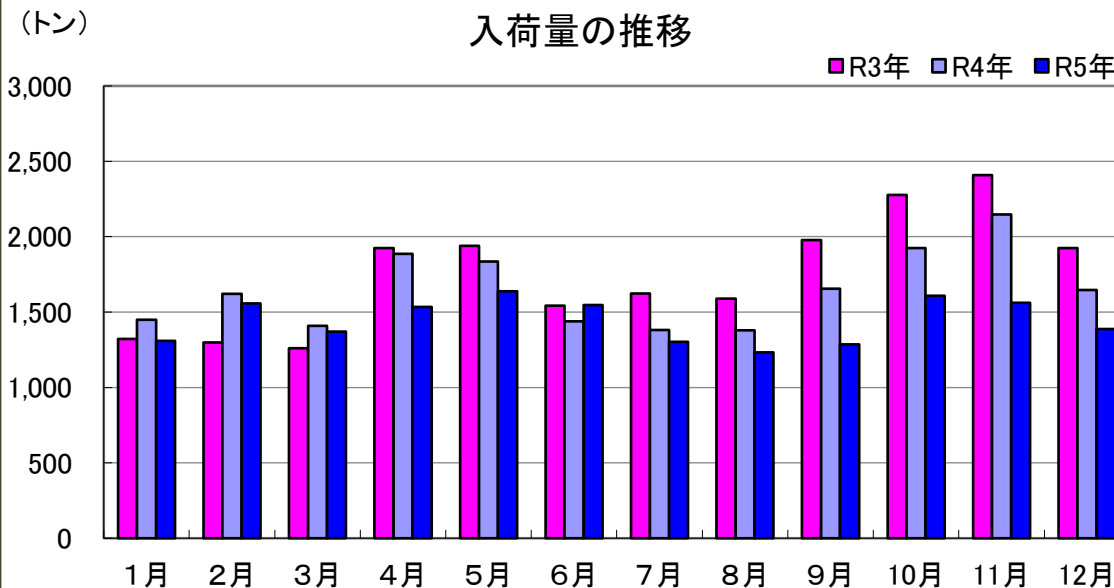
資料: 令和5年青果物卸売市場調査報告



にんじんの動向

○年により差があるものの、入荷量は10月から11月にかけて多くなっている。

○令和4年、5年は、北海道産の気象の影響等により、入荷量が減少し、卸売価格が高騰した。



全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
297千トン	7.8千トン	11%	89%

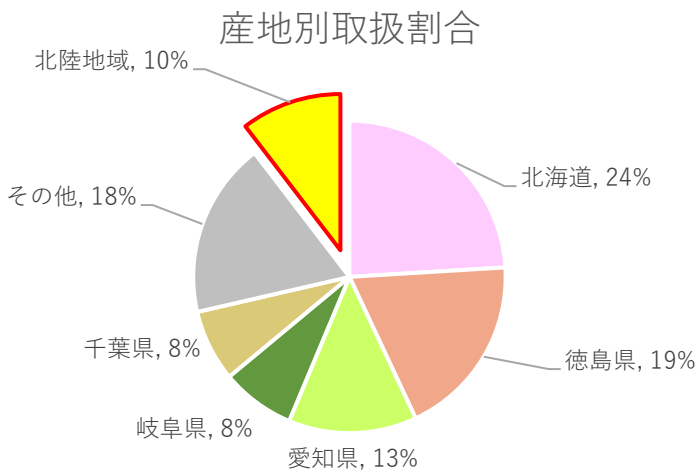
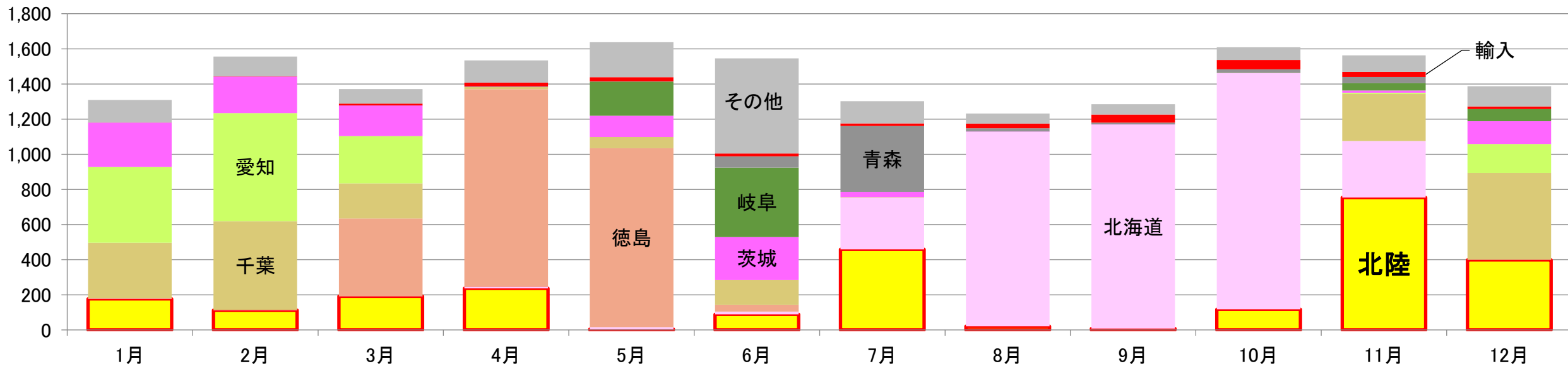
資料: 指定野菜の入荷量と価格(北陸農政局管内17市場を集計し取りまとめたもの。以下同じ。)

○入荷量は、北海道産、徳島産合わせて約4割を占めている。また、北陸地域からの供給比率は10%となっている。

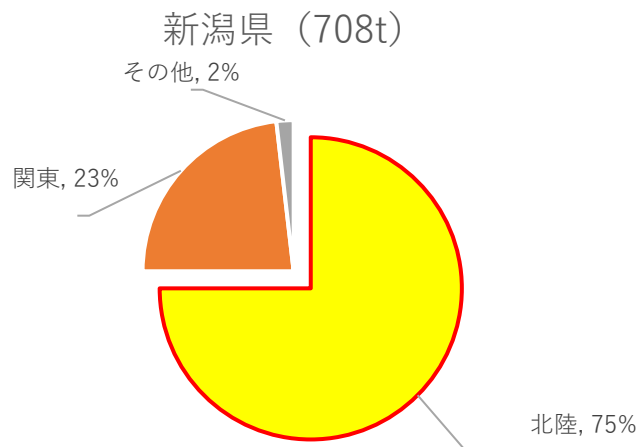
○新潟産は75%、富山産は92%がそれぞれ北陸地域に出荷されている。

(トン) 月別・産地別入荷動向 (令和5年)

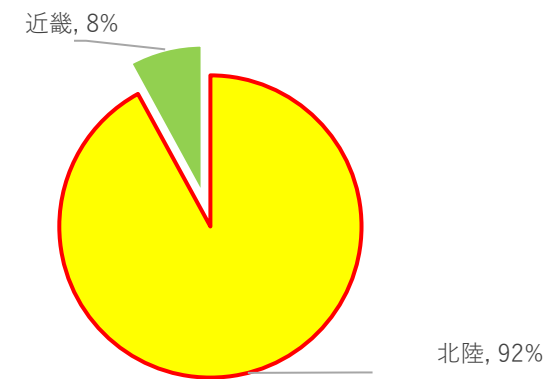
資料: 指定野菜の入荷量と価格



(参考) 主要消費地域への出荷量



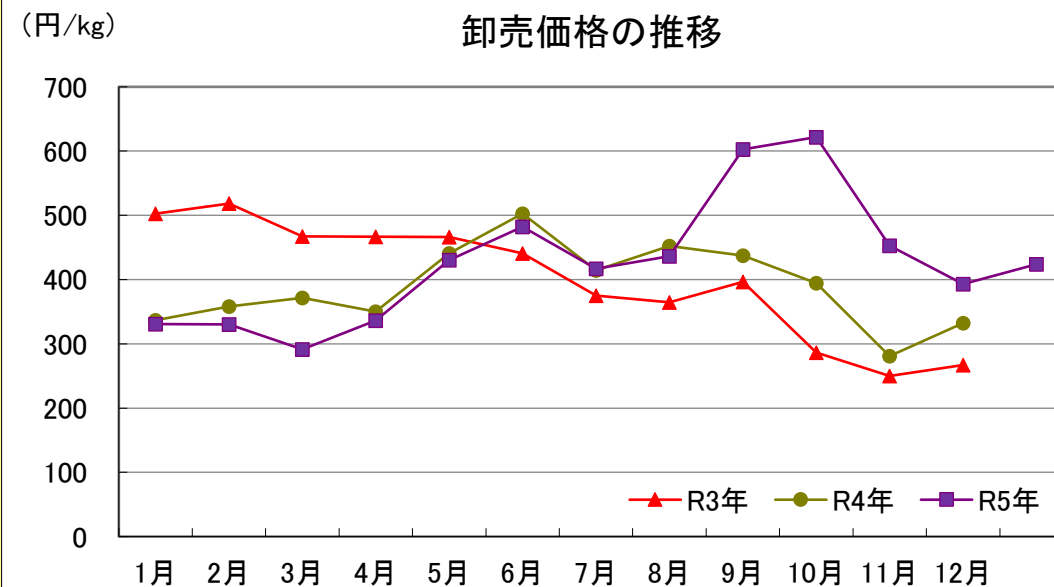
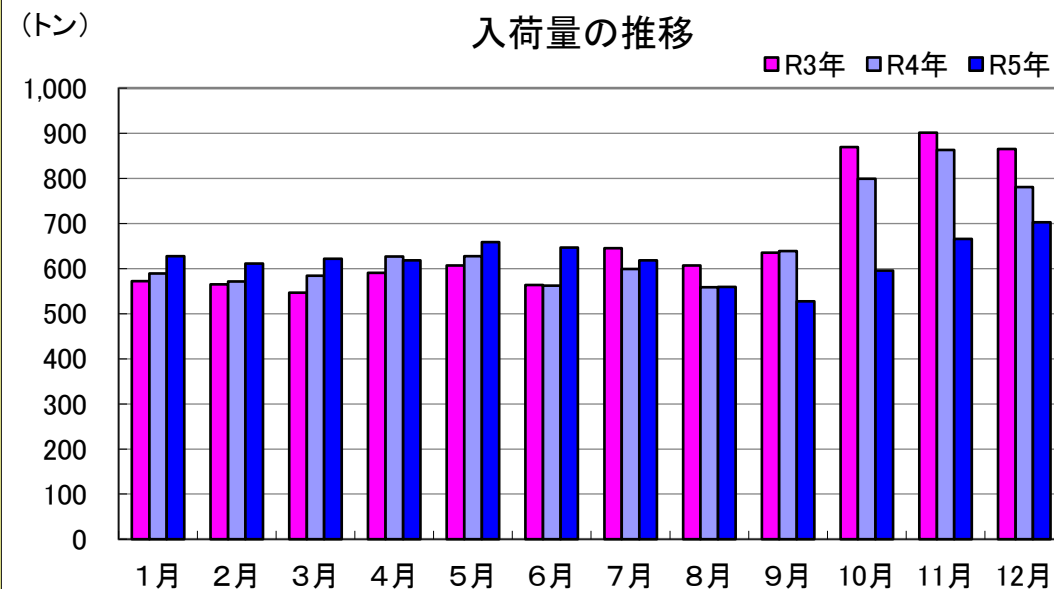
資料: 令和5年青果物卸売市場調査報告
福井県 (201t)



ねぎの動向

○年により差があるものの、入荷量は10～12月にかけて多くなっている。

○令和5年は、高温・干ばつ等の影響により、秋口にかかる入荷量が減少し、卸売価格が高騰した。



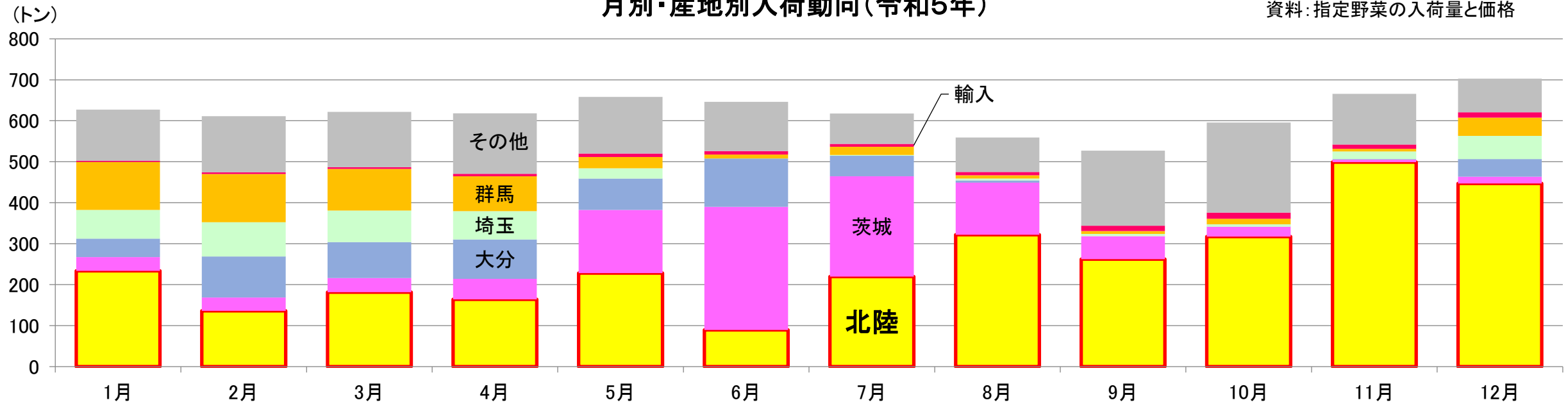
全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
137千トン	3.0千トン	38%	62%

○入荷量は、北陸産が約4割を占めている。

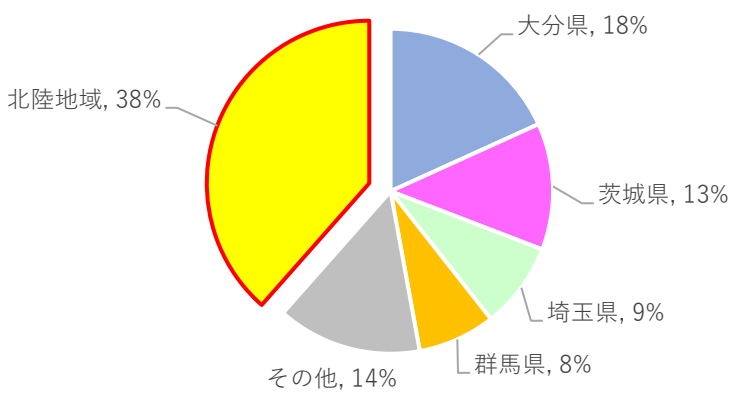
○新潟産、福井産ともに約5割が北陸地域へ出荷されている。

月別・産地別入荷動向(令和5年)

資料: 指定野菜の入荷量と価格

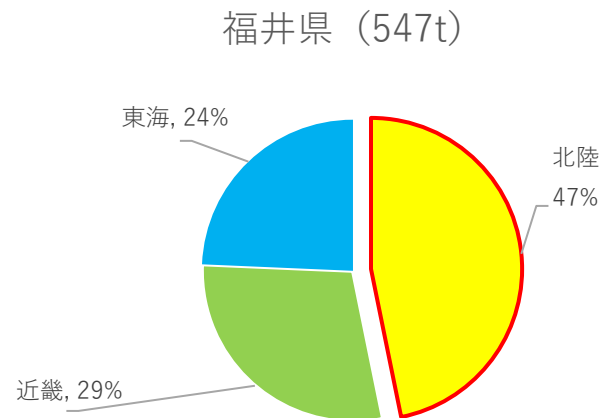
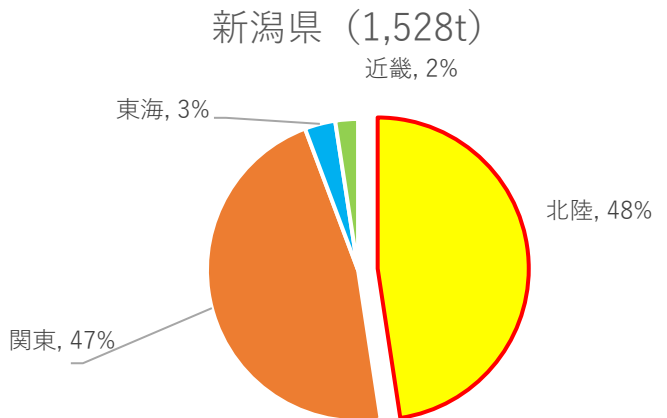


産地別取扱割合



(参考) 主要消費地域への出荷量

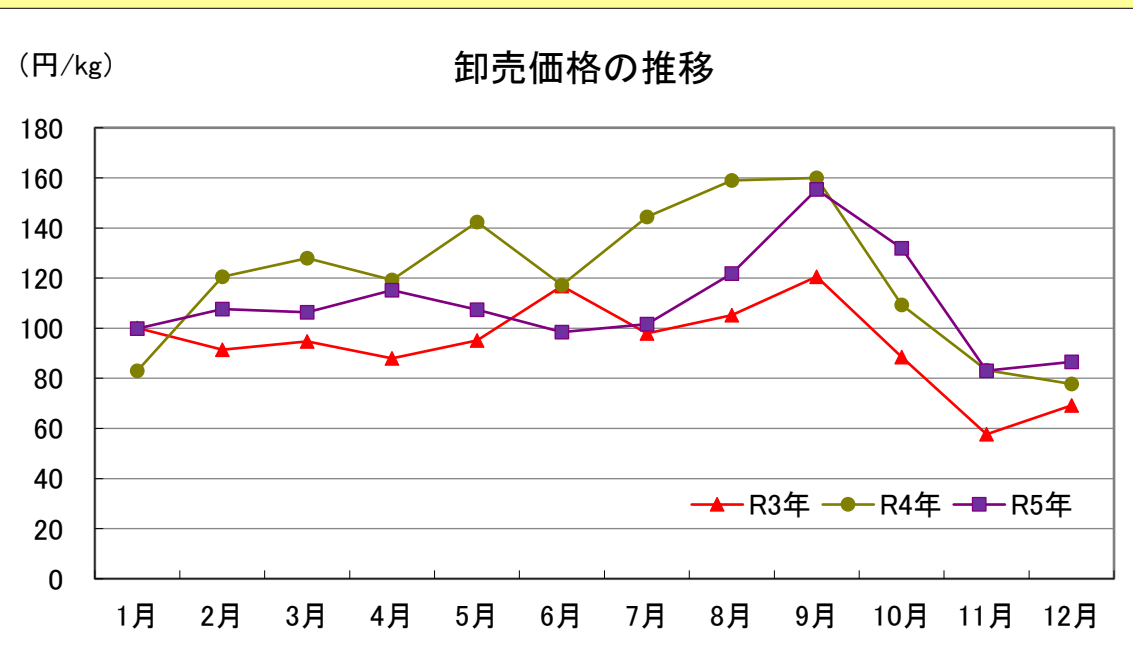
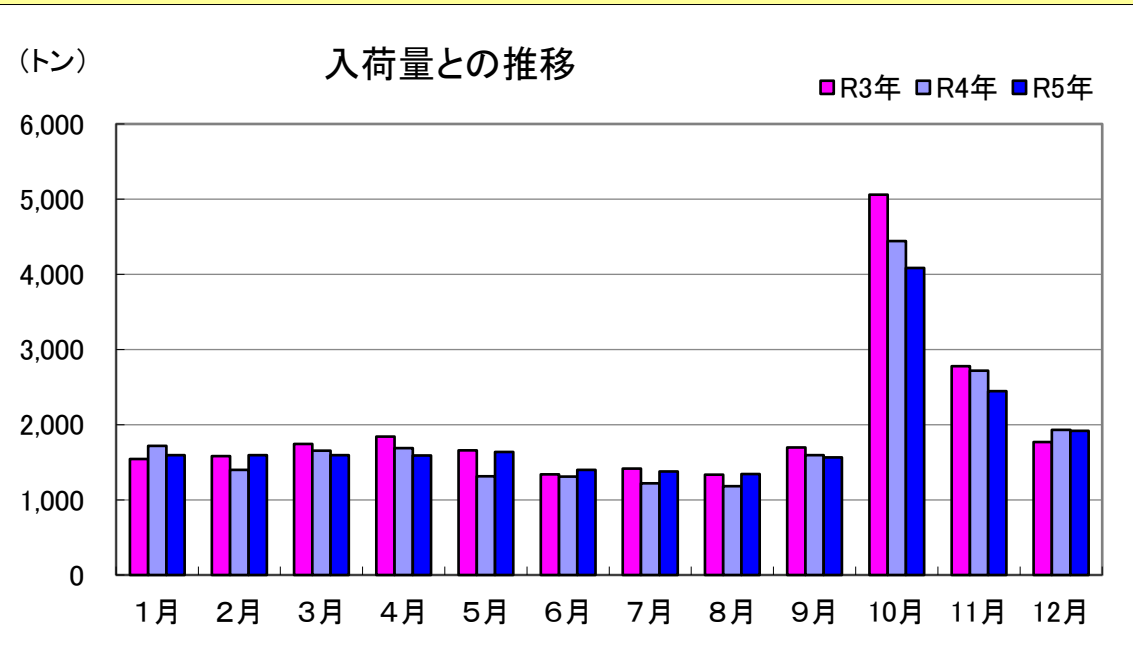
資料: 令和5年青果物卸売市場調査報告



だいこんの動向

○年により差があるものの、10月の入荷量が多く、その8割弱が北陸産となっている。

○卸売価格は、11月から12月にかけて安値となる傾向が見られる。

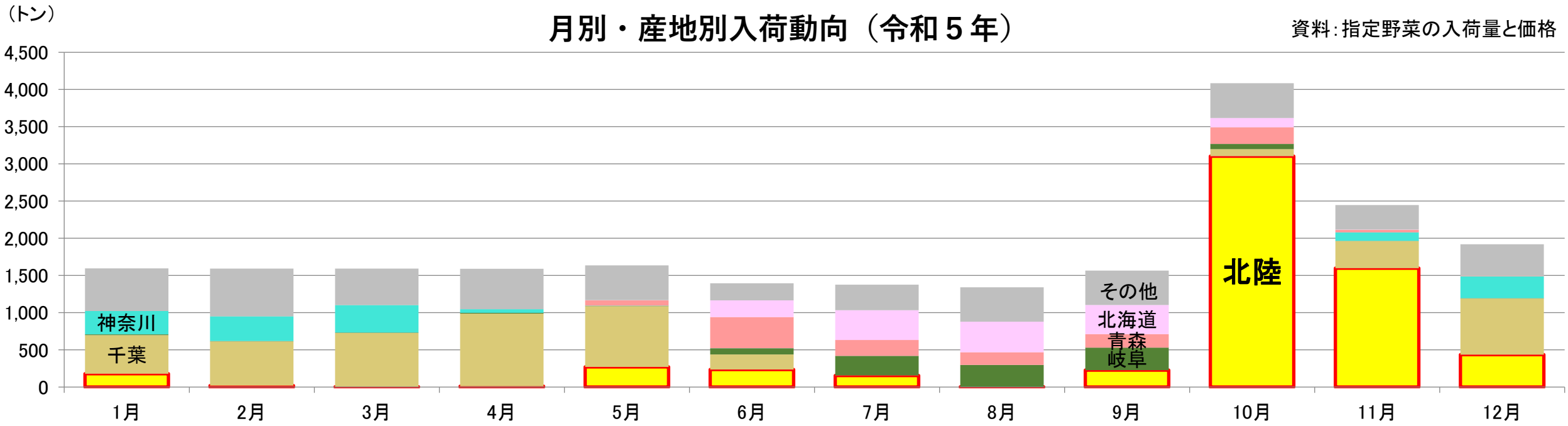


全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
415千トン	8.7千トン	26%	74%

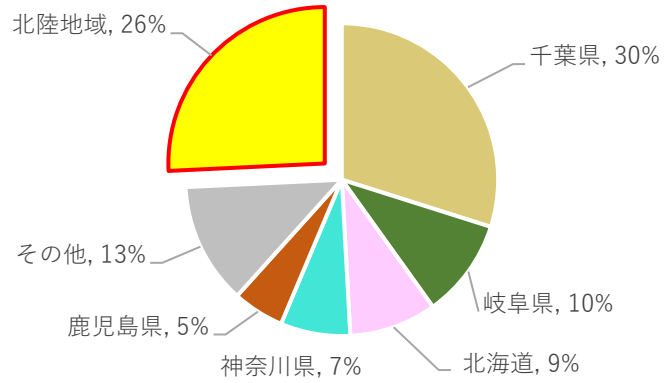
資料: 指定野菜の入荷量と価格(北陸農政局管内17市場を集計し取りまとめたもの。以下同じ。)

○入荷量は、千葉産が3割、岐阜産、北海道産が約1割を占め、北陸地域からの供給比率は26%となっている。

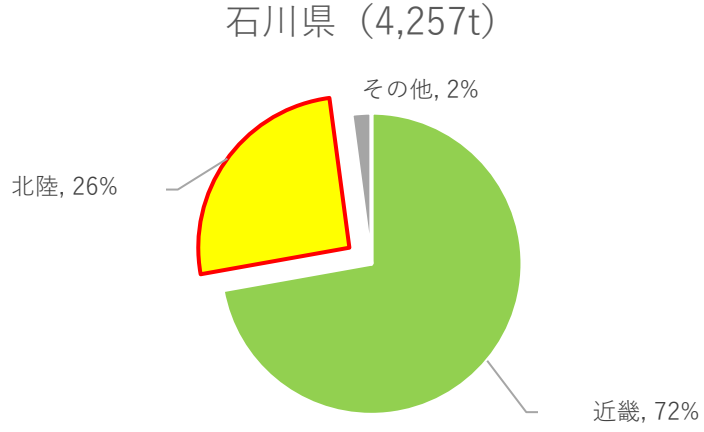
○石川産は、約7割が近畿地域へ出荷され、新潟産は北陸地域に約5割、東海地域に約3割が出荷されている。



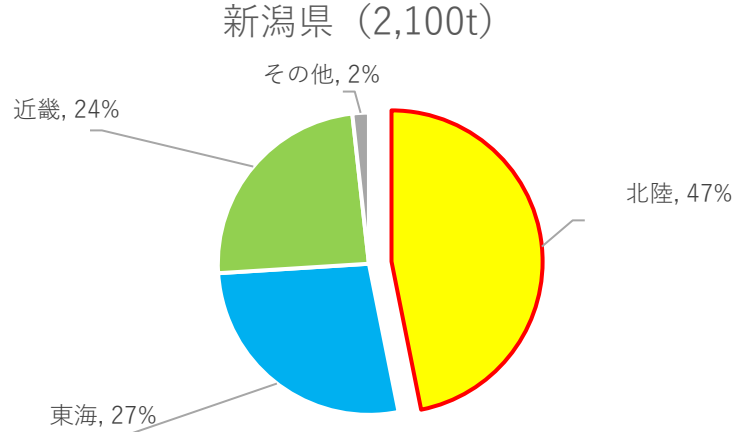
産地別取扱割合



(参考) 主要消費地域への出荷量



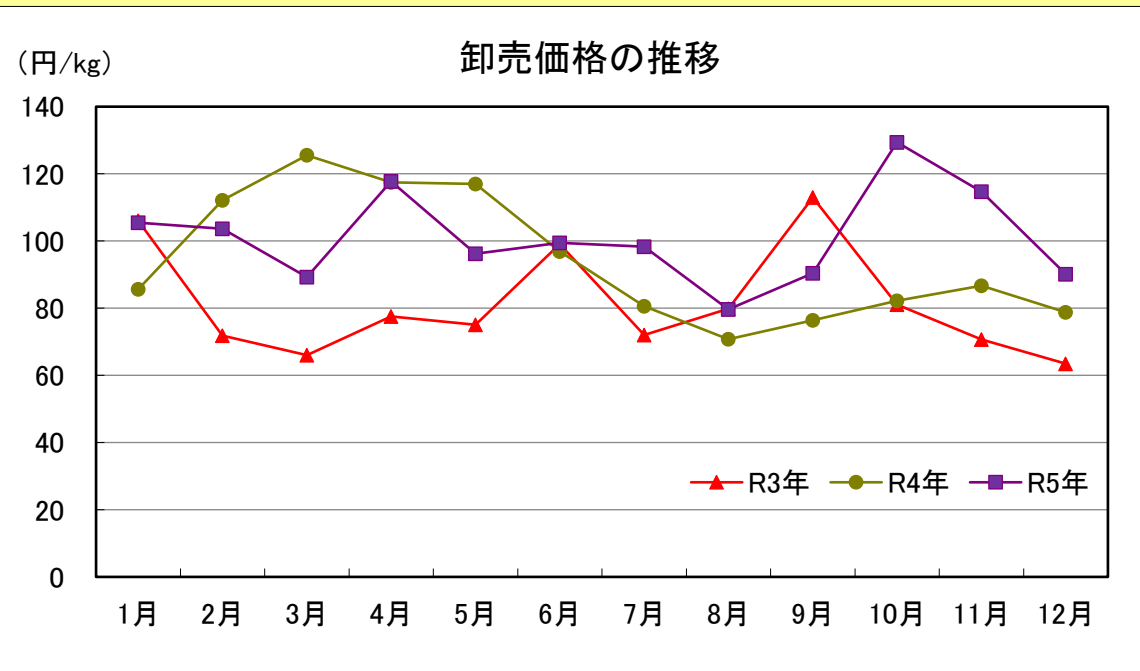
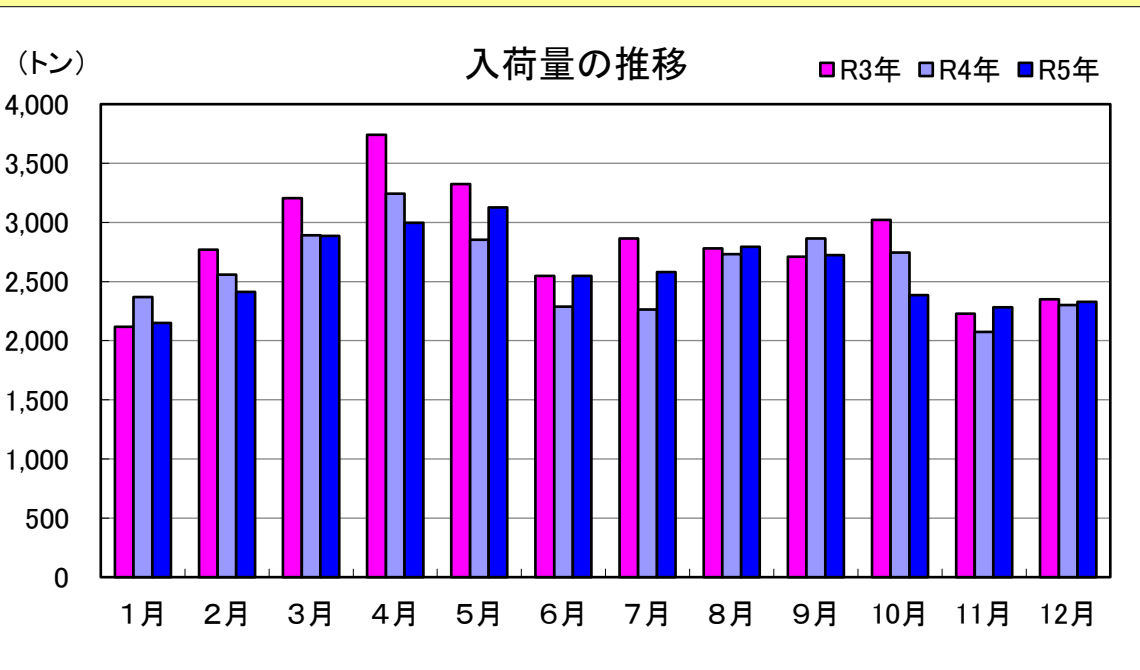
資料: 令和5年青果物卸売市場調査報告



キャベツの動向

○年により差があるものの、入荷量は4月から5月にかけて多くなっている。

○令和3年から5年は、3年連続で7月から長期に渡って価格が低迷し、8月、9月に緊急需給調整事業を発動。夏場の価格低落が常態化している。

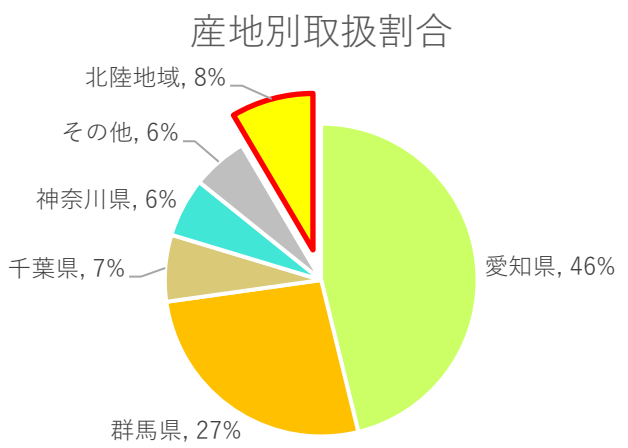
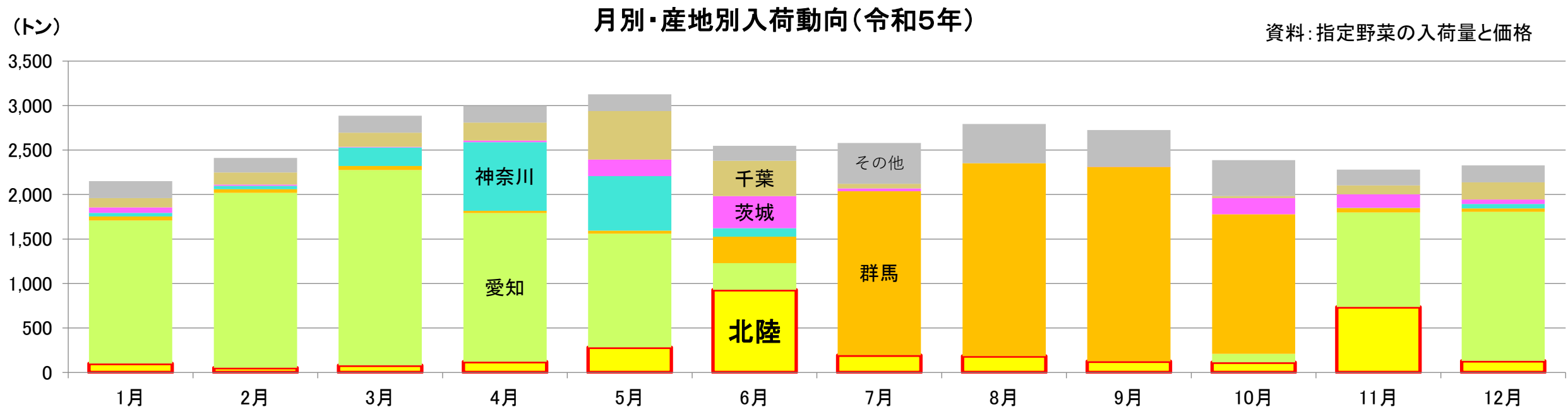


全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
655千トン	13.5千トン	8%	92%

資料：指定野菜の入荷量と価格（北陸農政局管内17市場を集計し取りまとめたもの。以下同じ。）

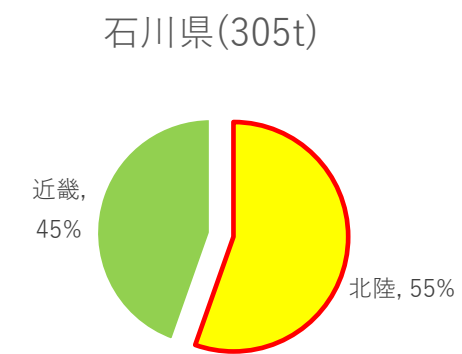
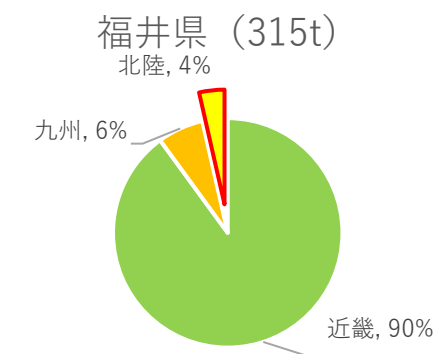
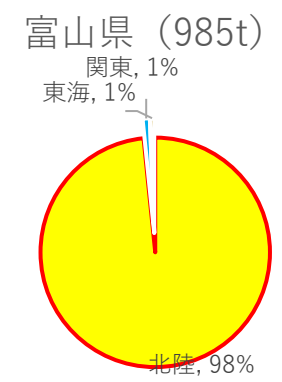
○入荷量は、愛知産が46%、次いで群馬産が27%で、その2県で約7割を占めている。

○富山産はほとんどが北陸地域に出荷されるが、福井産は9割が近畿地域へ出荷されている。



(参考) 主要消費地域への出荷量

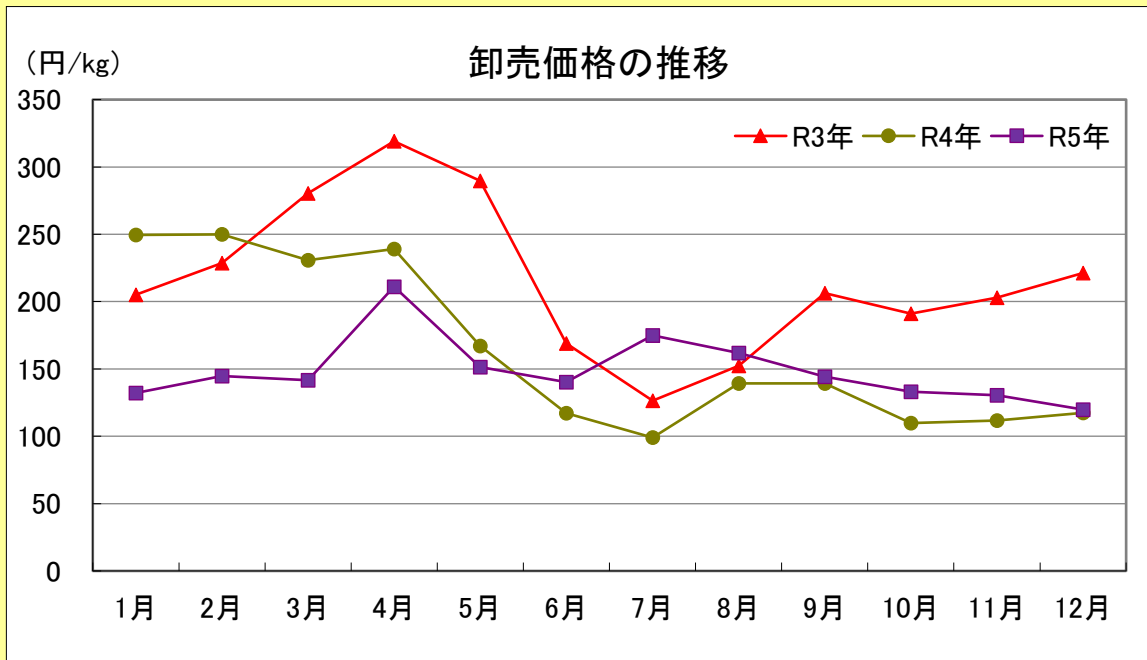
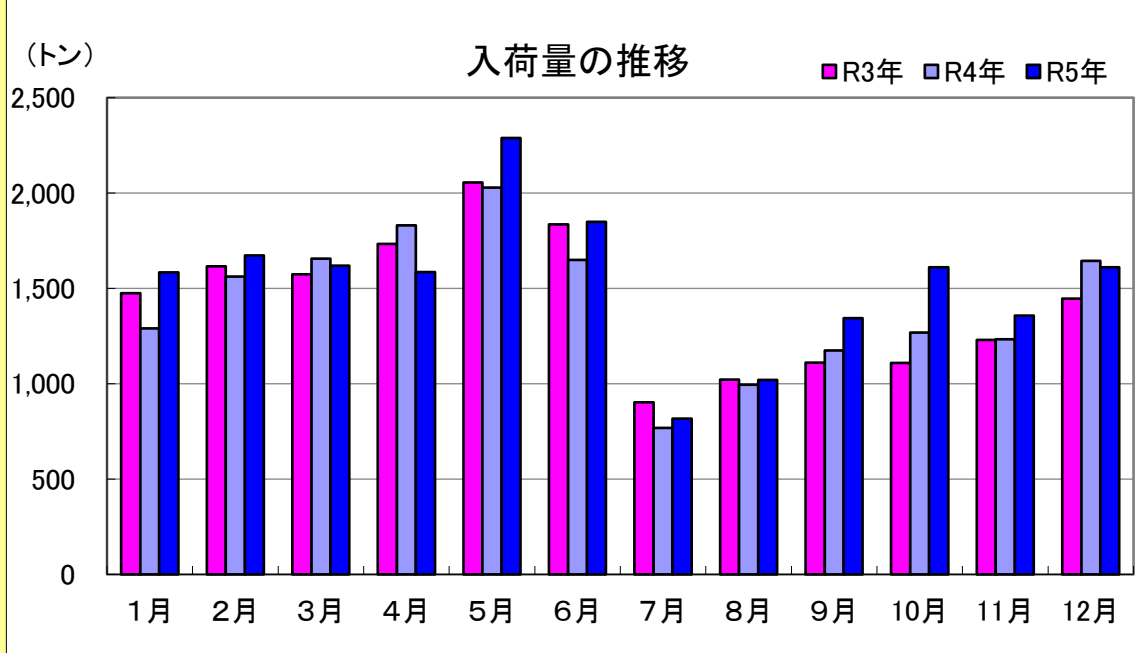
資料: 令和5年青果物卸売市場調査報告



ばれいしょの動向

○年により差があるものの、4月から5月にかけて入荷量が多くなる傾向が見られる。

○令和3年は、北海道産が早めの切り上がり、鹿児島産等生育不良等の影響により、卸売価格が高騰した。



全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
312千トン	8.3千トン	2%	98%

資料：指定野菜の入荷量と価格（北陸農政局管内17市場を集計し取りまとめたもの。以下同じ。）

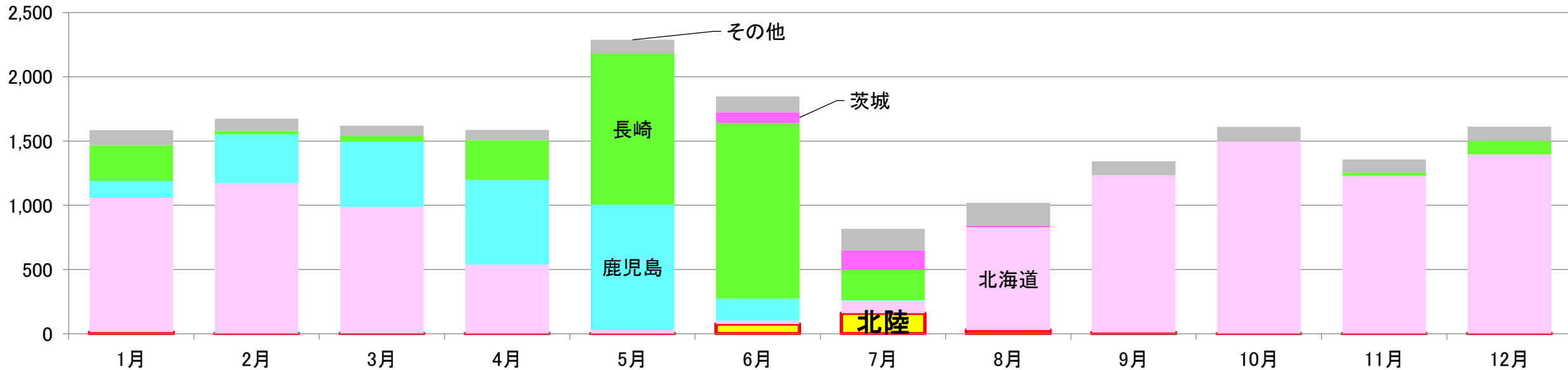
○入荷量は、北海道産で約5割、長崎、鹿児島九州産で約4割を占めている。

○新潟産は、約8割が北陸地域、約2割が関東地域へ出荷されている。

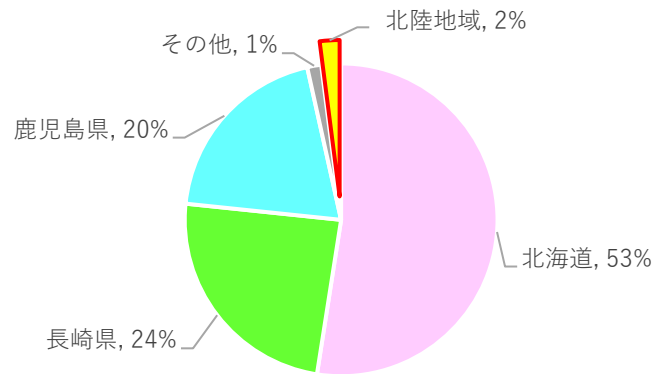
(トン)

月別・産地別入荷動向(令和5年)

資料：指定野菜の入荷量と価格

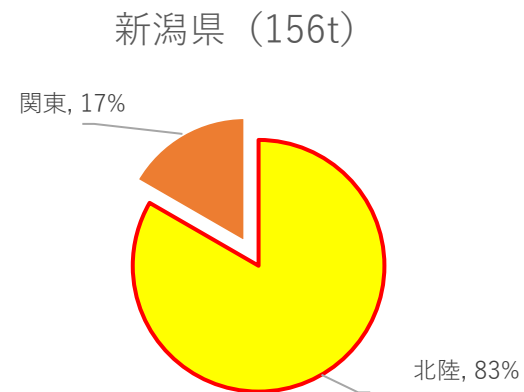


産地別取扱割合



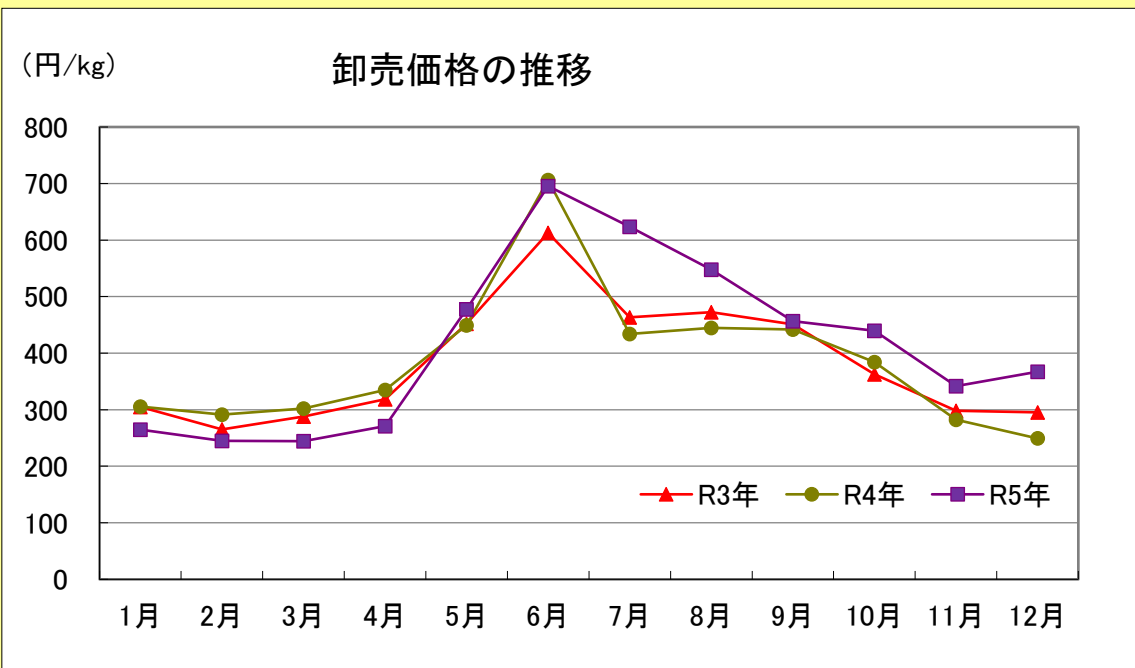
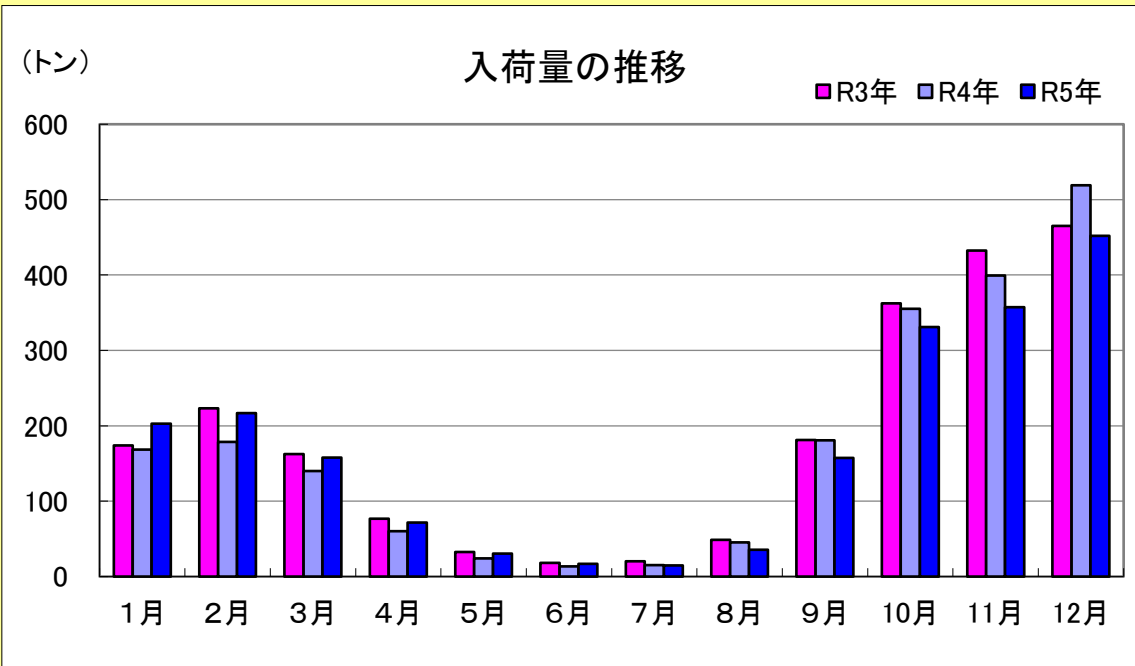
(参考) 主要消費地域への出荷量

資料：令和5年青果物卸売市場調査報告



さいいもの動向

〇年により差があるものの、入荷量は5月から7月にかけて少なくなり、卸売価格が上昇する傾向が見られる。



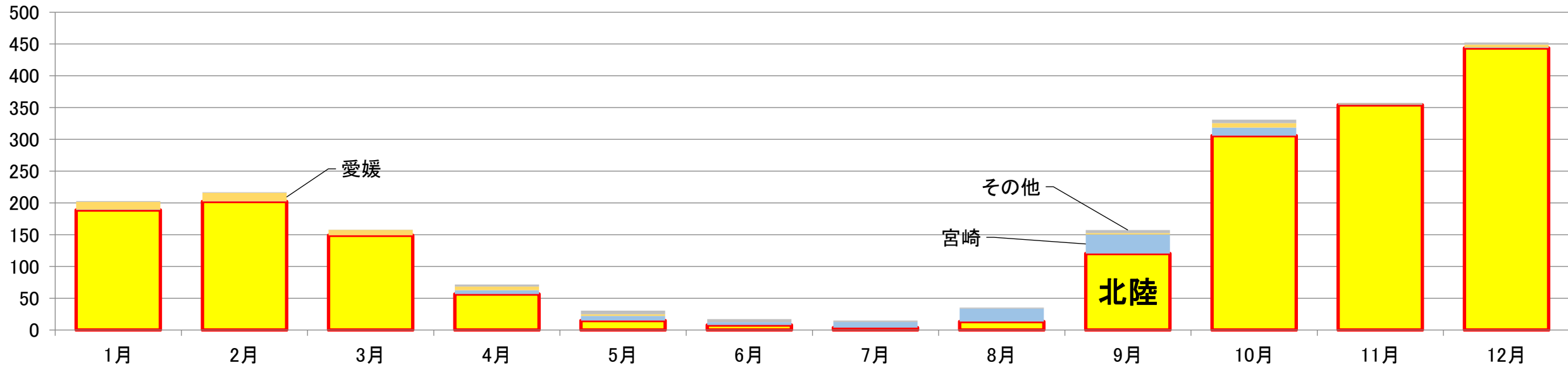
全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
23千トン	0.9千トン	87%	13%

○入荷量は、北陸産が約9割を占めている。

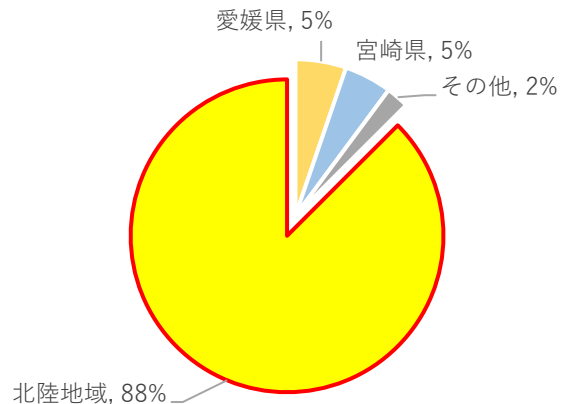
○新潟産は約4割が北陸地域、約3割が東北地域に出荷されている。福井産は5割が北陸地域、約3割が東海地域に出荷されている。

(トン) 月別・産地別入荷動向(令和5年)

資料: 指定野菜の入荷量と価格

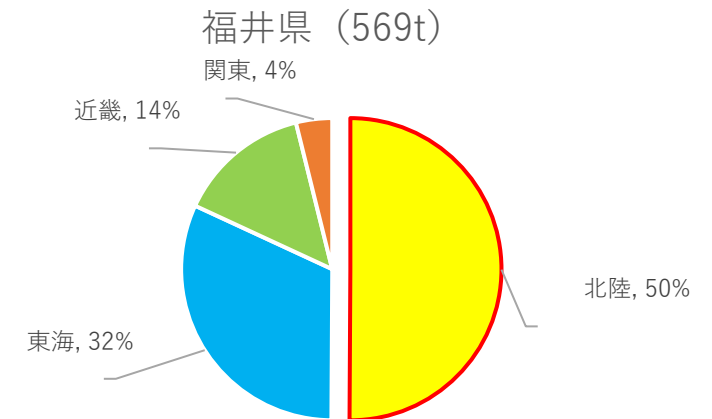
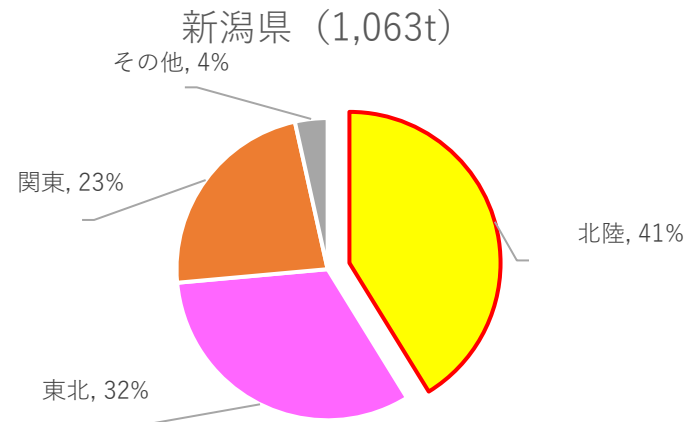


産地別取扱割合



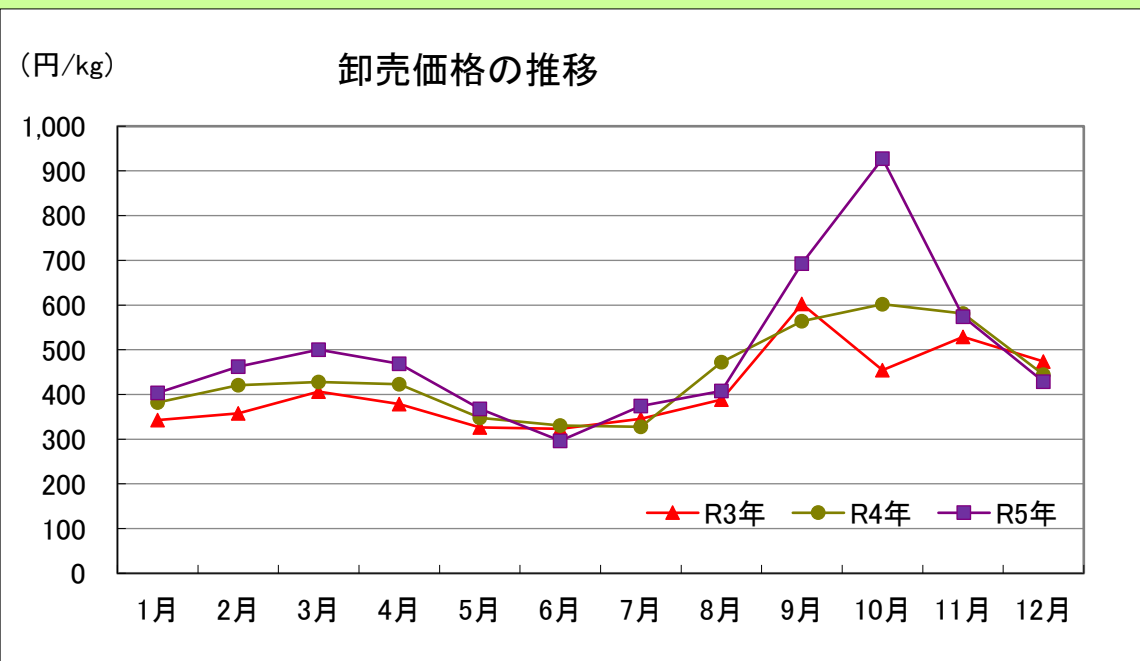
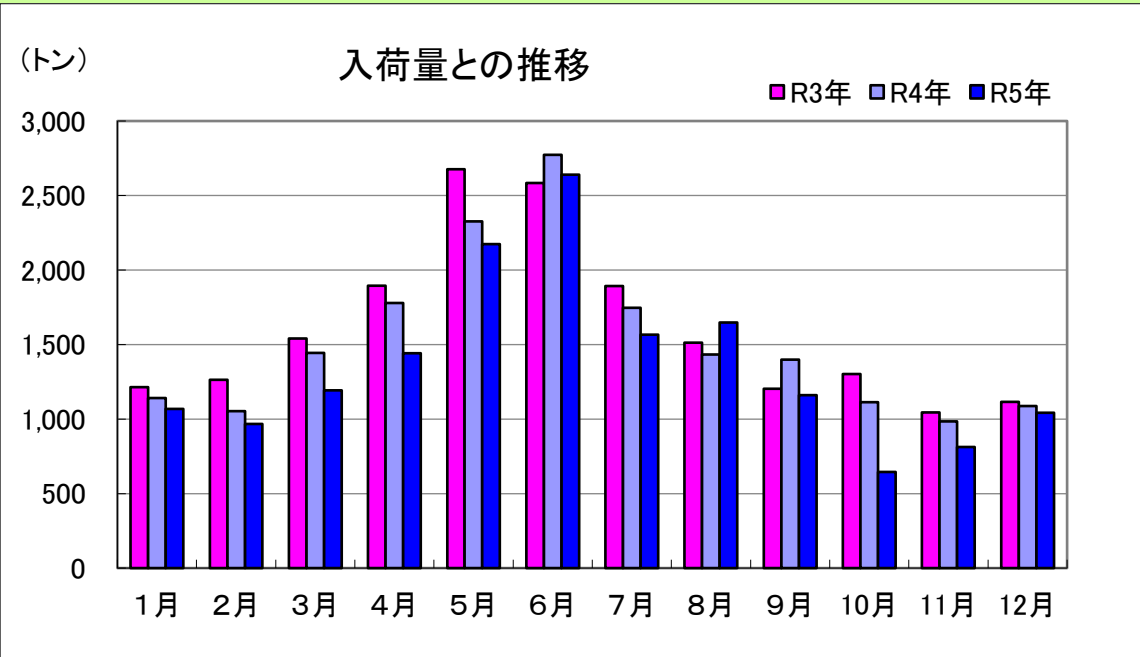
(参考) 主要消費地域への出荷量

資料: 令和5年青果物卸売市場調査報告



トマトの動向

〇年により差があるものの、入荷量は5月から6月にかけて多くなり、卸売価格が低下する傾向が見られる。



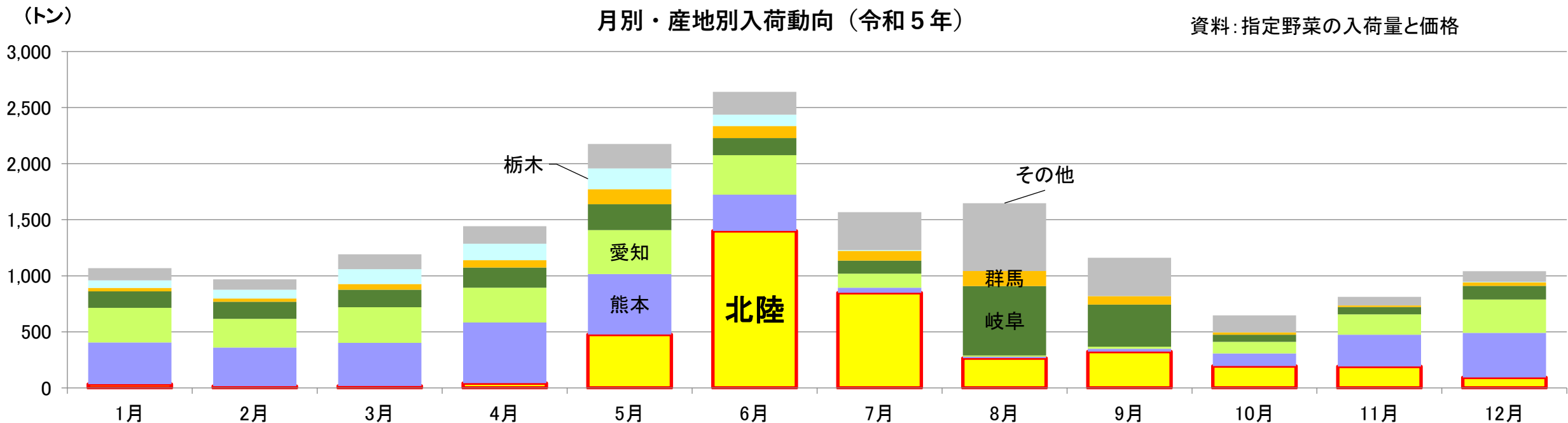
全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
216千トン	6.2千トン	24%	76%

注：トマトにはミニトマトも含む

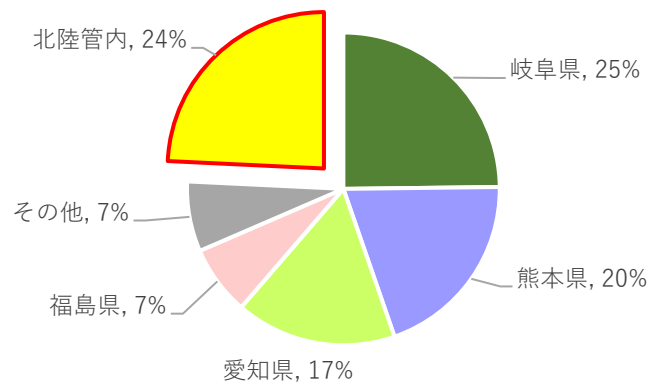
資料：指定野菜の入荷量と価格(北陸農政局管内17市場を集計し取りまとめたもの。以下同じ。)

○入荷量は、岐阜、熊本、愛知の3県で約6割を占め、北陸地域からのトマトの供給比率は24%となっている。

○石川、新潟の2県は、北陸地域に出荷する割合が高く、福井では近畿地域への出荷が多くなっている。

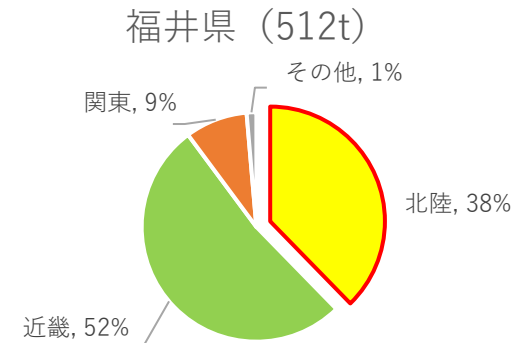
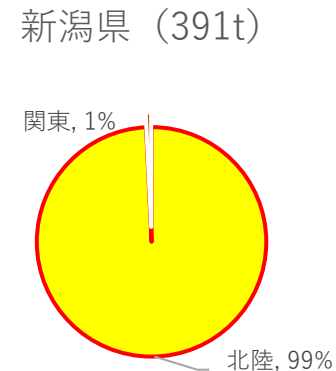
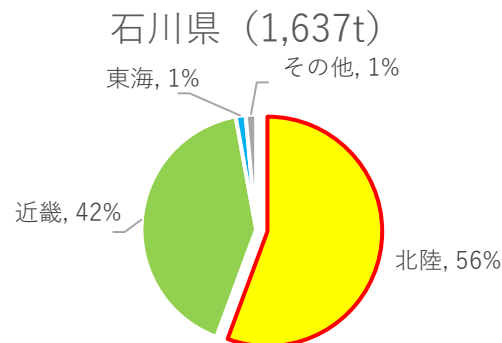


産地別取扱割合



（参考）主要消費地域への出荷量

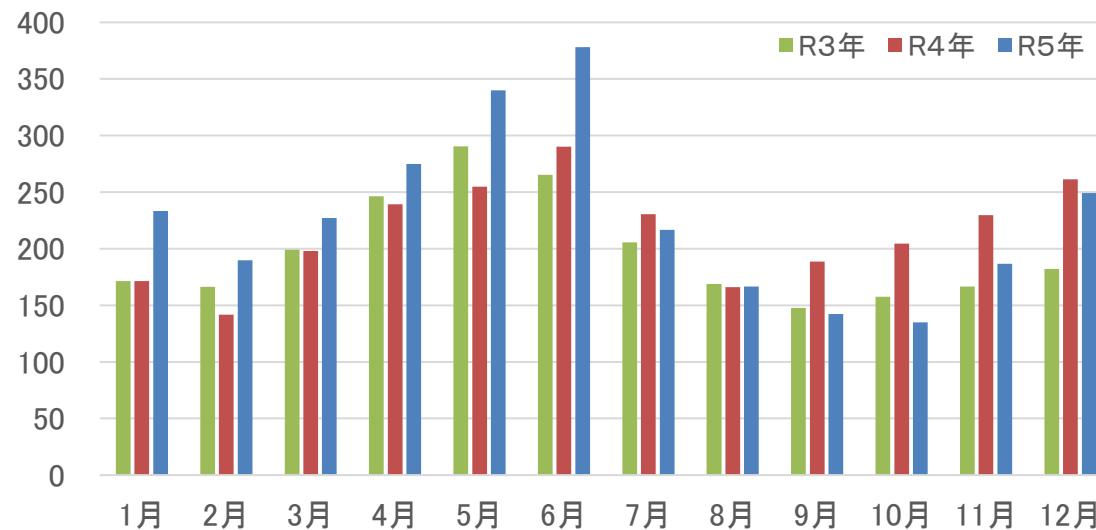
資料：令和5年青果物卸売市場調査報告



ミニトマトの動向

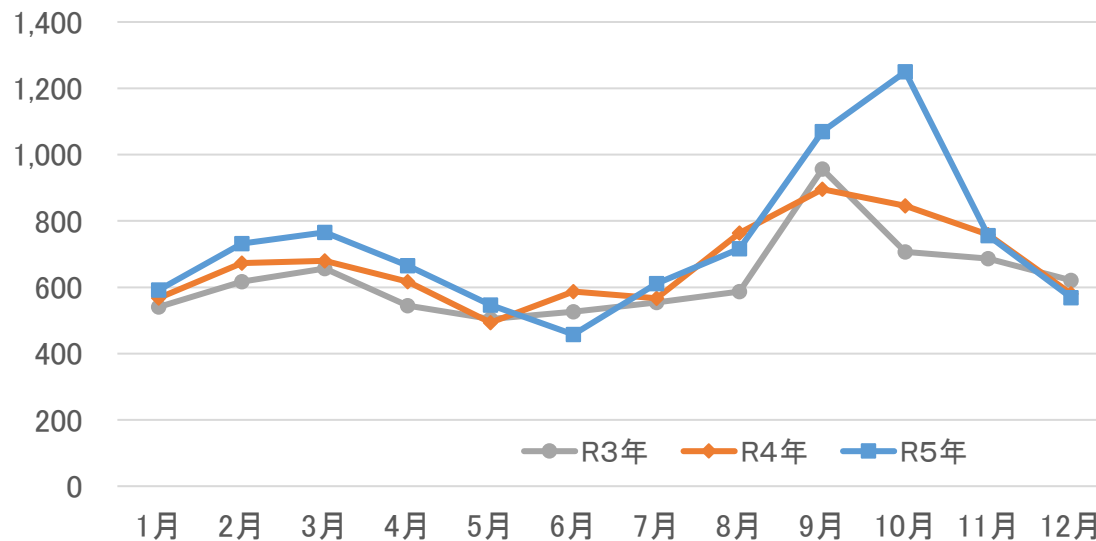
〇年により差があるものの、5月から6月にかけて入荷量が多くなり、卸売価格が下落する傾向が見られる。

(トン) 入荷量の推移



全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
74千トン	2.2千トン	11%	89%

(円/kg) 卸売価格の推移



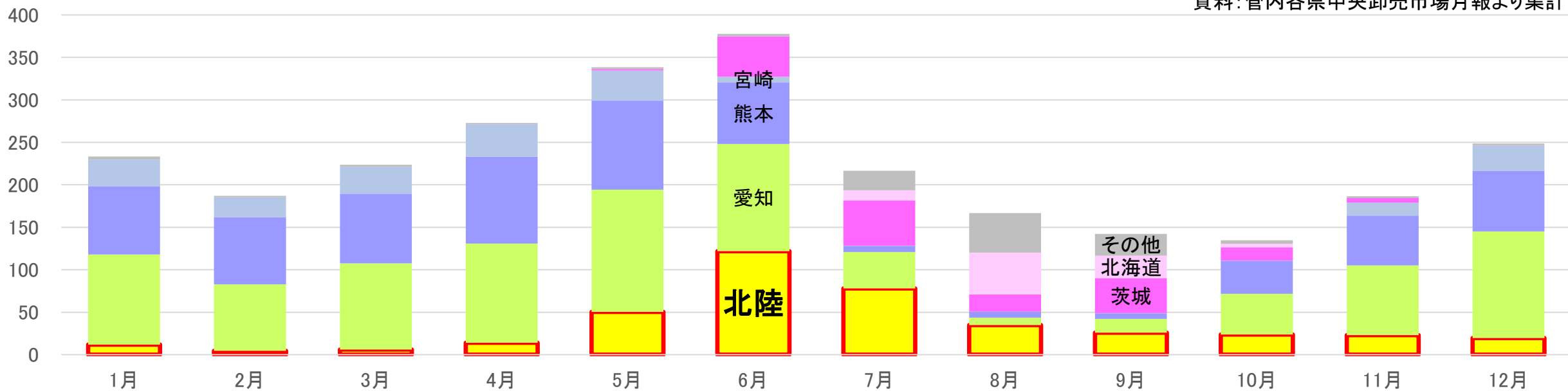
○入荷量は、愛知産が33%、次いで熊本産が29%を占め、その2県で約6割を占めている。北陸地域からのミニトマトの供給比率は11%。

○新潟産は8割以上、福井産は9割以上が北陸地域に出荷されている。

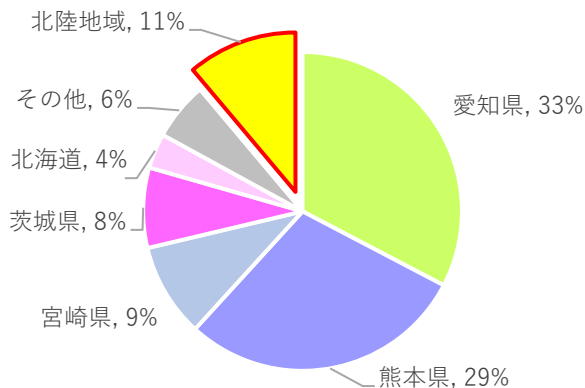
(トン)

月別・産地別入荷動向(令和5年)

資料:管内各県中央卸売市場月報より集計

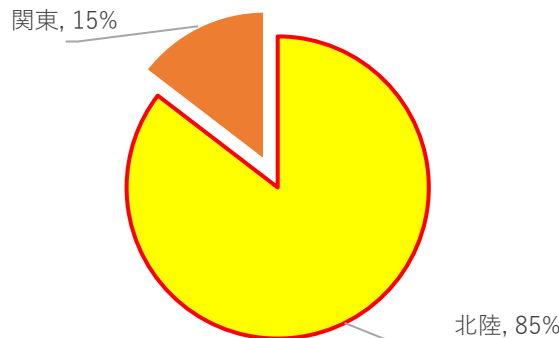


産地別取扱割合



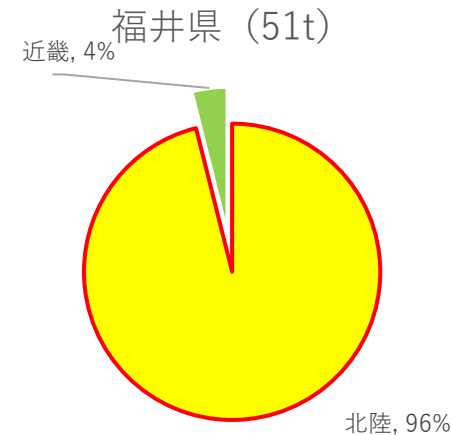
(参考)主要消費地域への出荷量

新潟県 (234t)



資料:令和5年青果物卸売市場調査報告

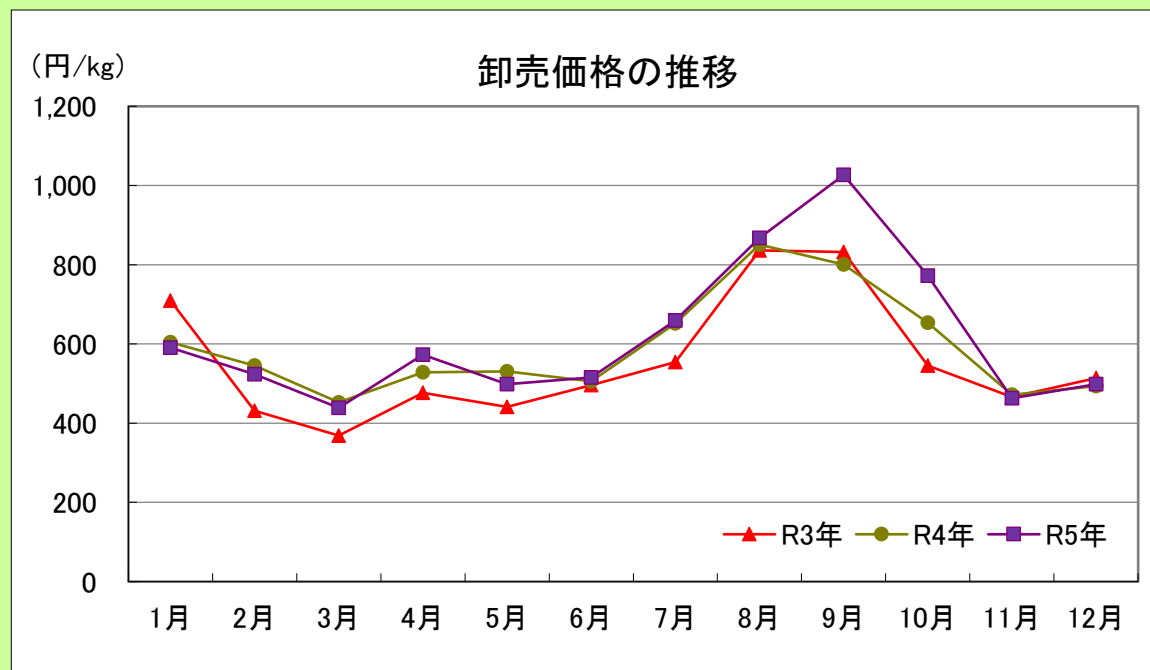
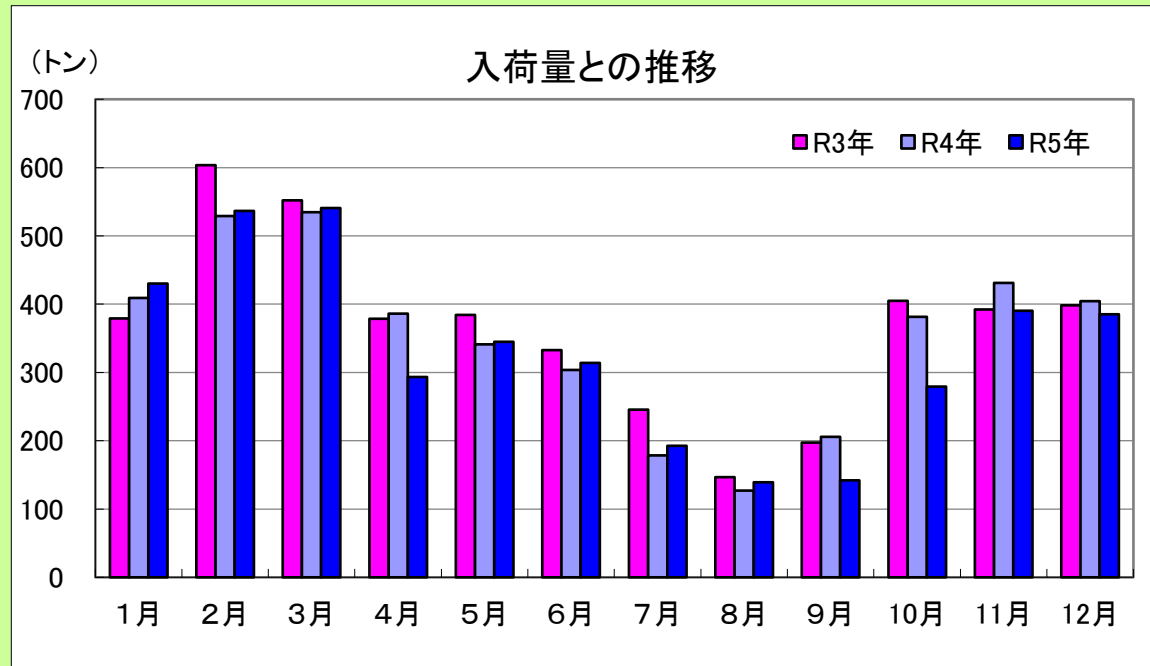
福井県 (51t)



ほうれんそうの動向

〇年により差があるものの、2月から3月にかけて入荷量が多くなり、卸売価格が下落する傾向が見られる。

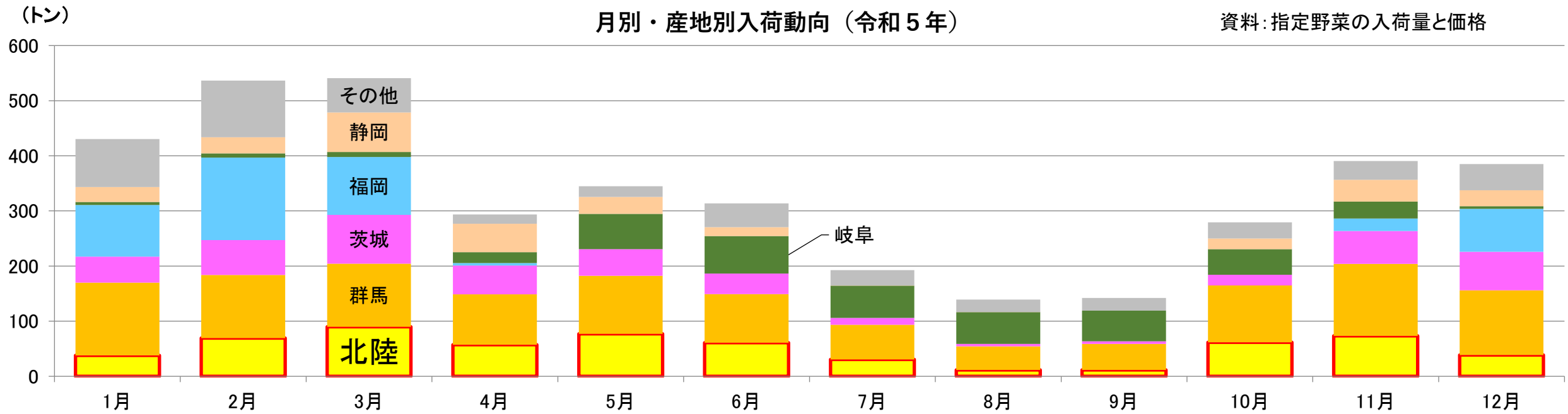
全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
52千トン	1.9千トン	12%	88%



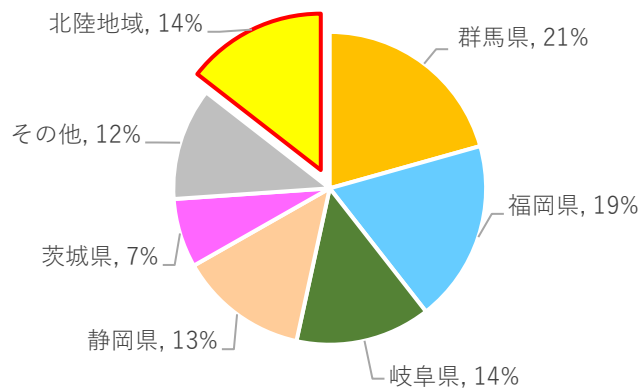
資料：指定野菜の入荷量と価格（北陸農政局管内17市場を集計し取りまとめたもの。以下同じ。）

○入荷量は、群馬、福岡産の2県で4割を占め、北陸管内からの供給比率は14%となっている。

○新潟産は88%が、石川産は全量が北陸地域に出荷されている。



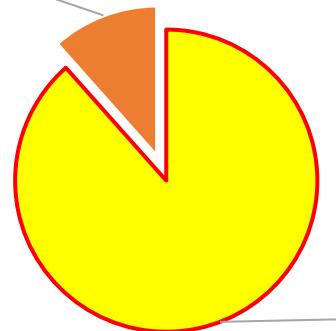
産地別取扱割合



(参考)主要消費地域への出荷量

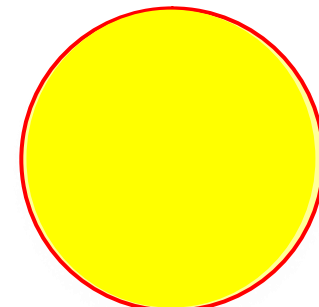
新潟県 (118t)

関東, 12%



資料：令和5年青果物卸売市場調査報告

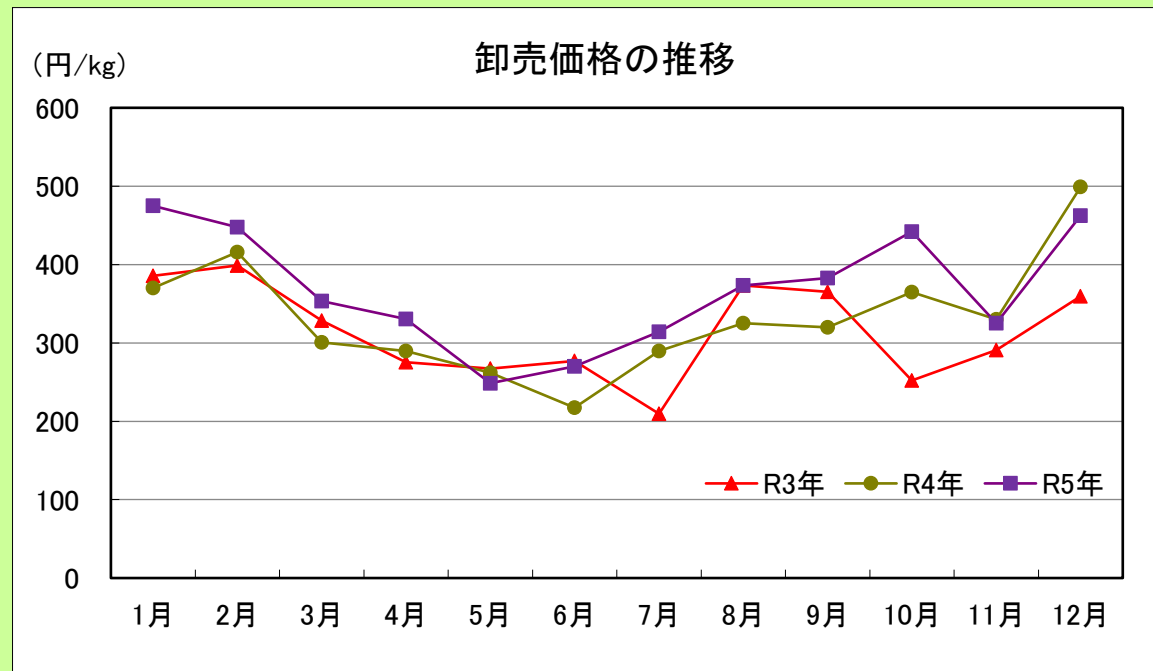
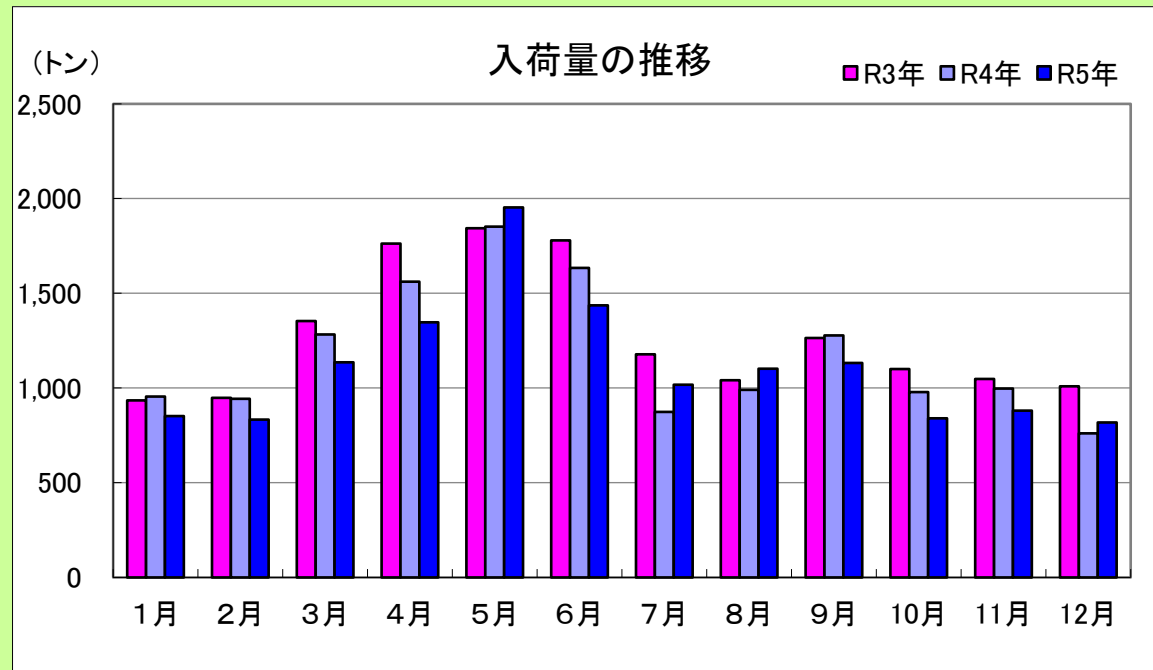
石川県 (123t)



北陸, 100%

きゅうりの動向

〇年により差があるものの、入荷量は4月から6月にかけて多くなり、卸売価格が下落する傾向が見られる。

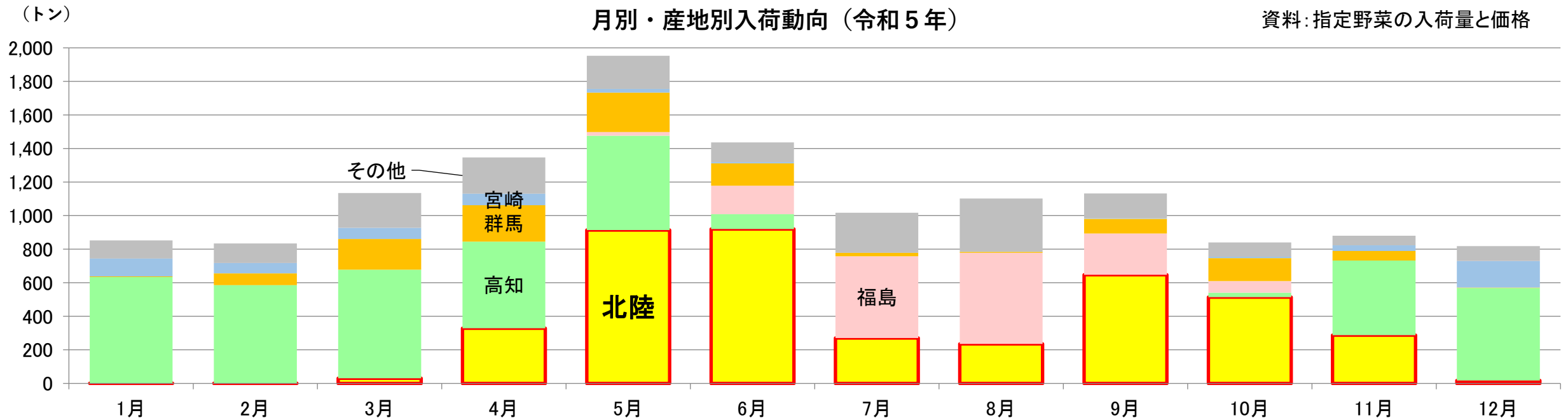


全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
247千トン	6.2千トン	26%	74%

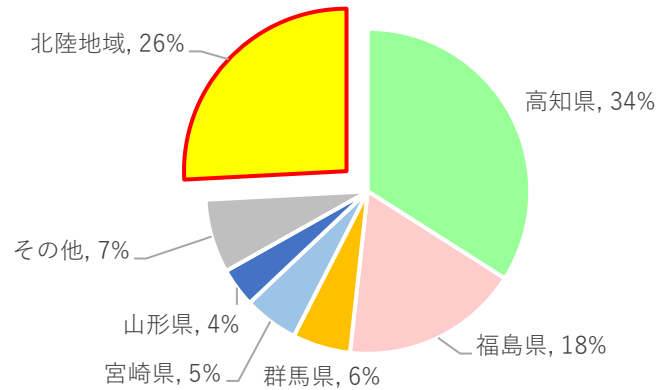
資料：指定野菜の入荷量と価格（北陸農政局17市場を集計し取りまとめたもの。以下同じ。）

○入荷量は、高知産が全体の34%、次いで福島産が18%で、2県で約5割を占める。

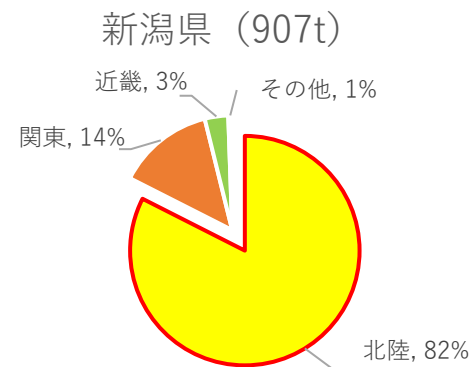
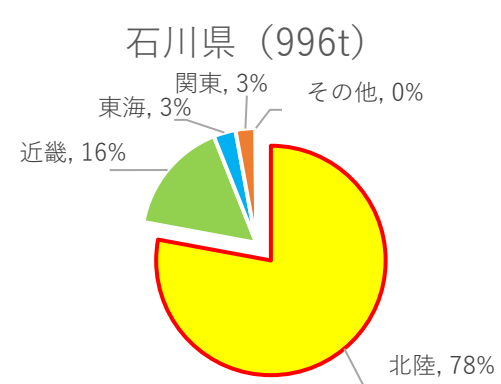
○石川、新潟産の約8割、福井産の約5割が北陸地域へ出荷されている。



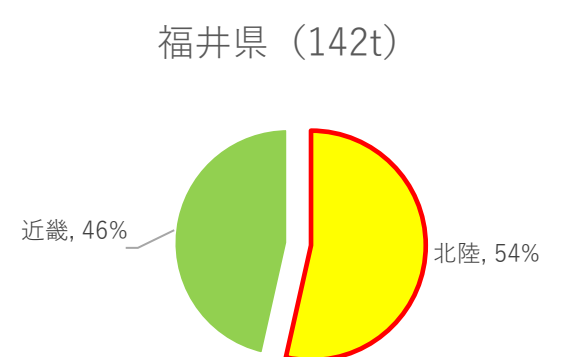
産地別取扱割合



(参考) 主要消費地域への出荷量



資料: 令和5年青果物卸売市場調査報告

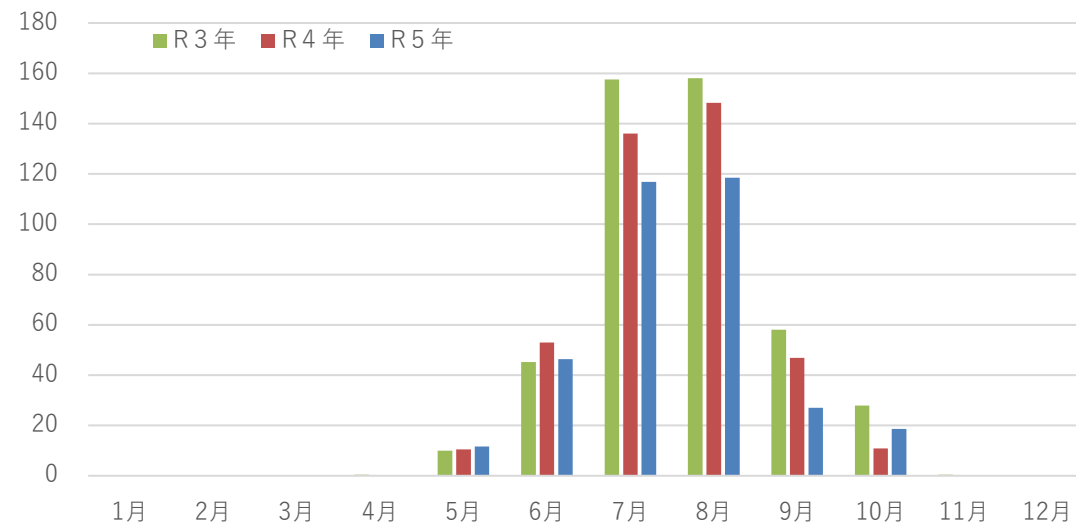


えだまめの動向

〇年により差があるものの、7月から8月にかけて入荷量が多くなり、卸売価格が下落する傾向が見られる。

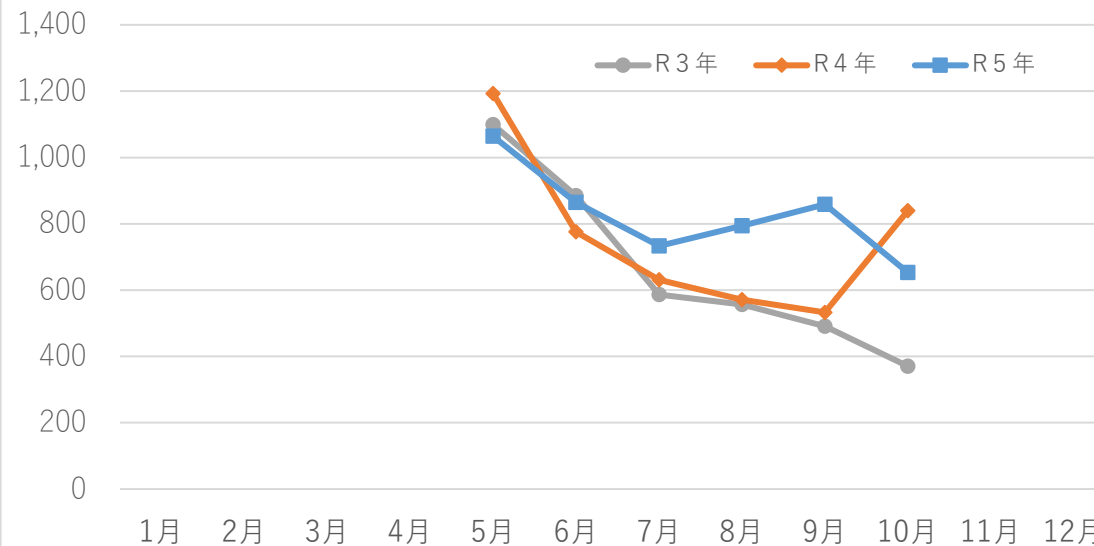
(トン)

入荷量の推移



(円/kg)

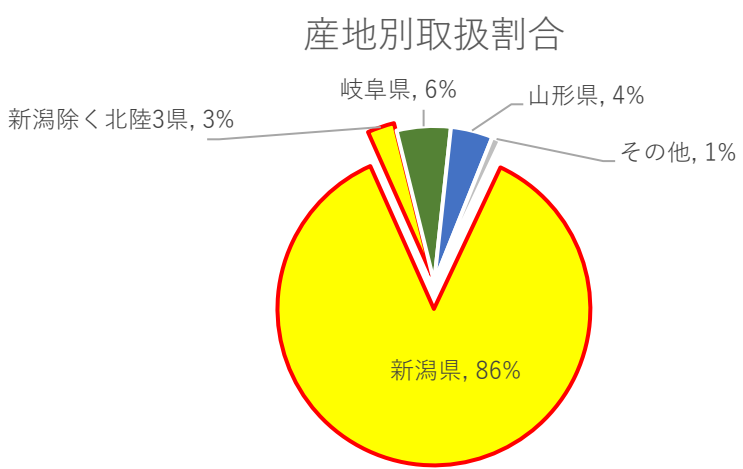
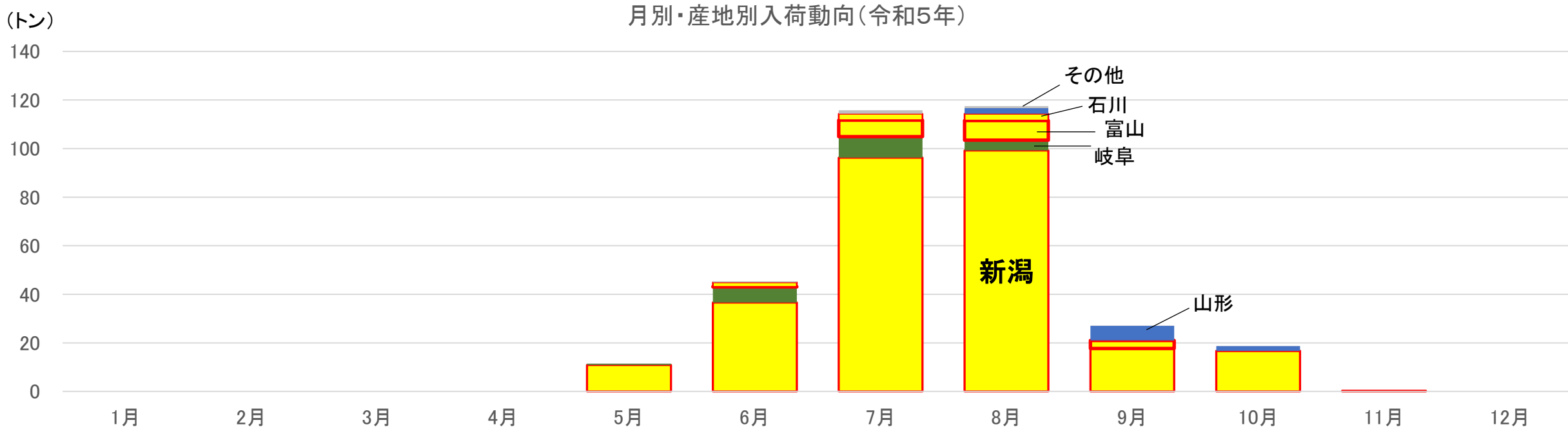
卸売価格の推移



全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
9.0千トン	0.3千トン	88%	12%

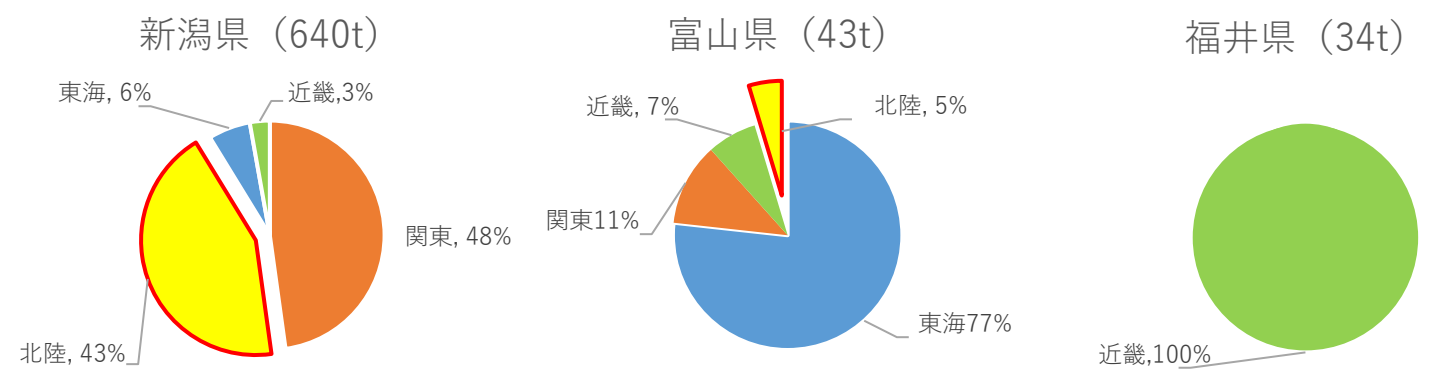
○入荷量は、北陸地域が約9割を占め、その内、新潟産が8割以上を占めている。

○新潟産は関東へ約5割、北陸へは4割以上を出荷。富山産は約8割が東海地域に、福井産は全量が近畿地域へ出荷されている。



(参考)主要消費地域への出荷量

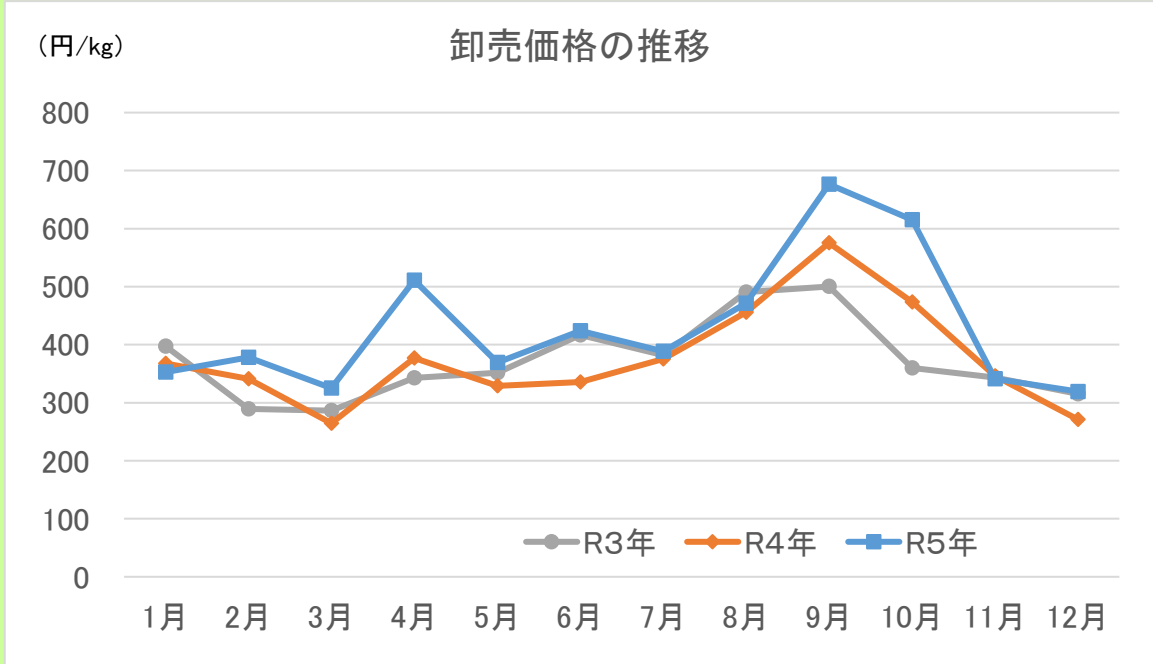
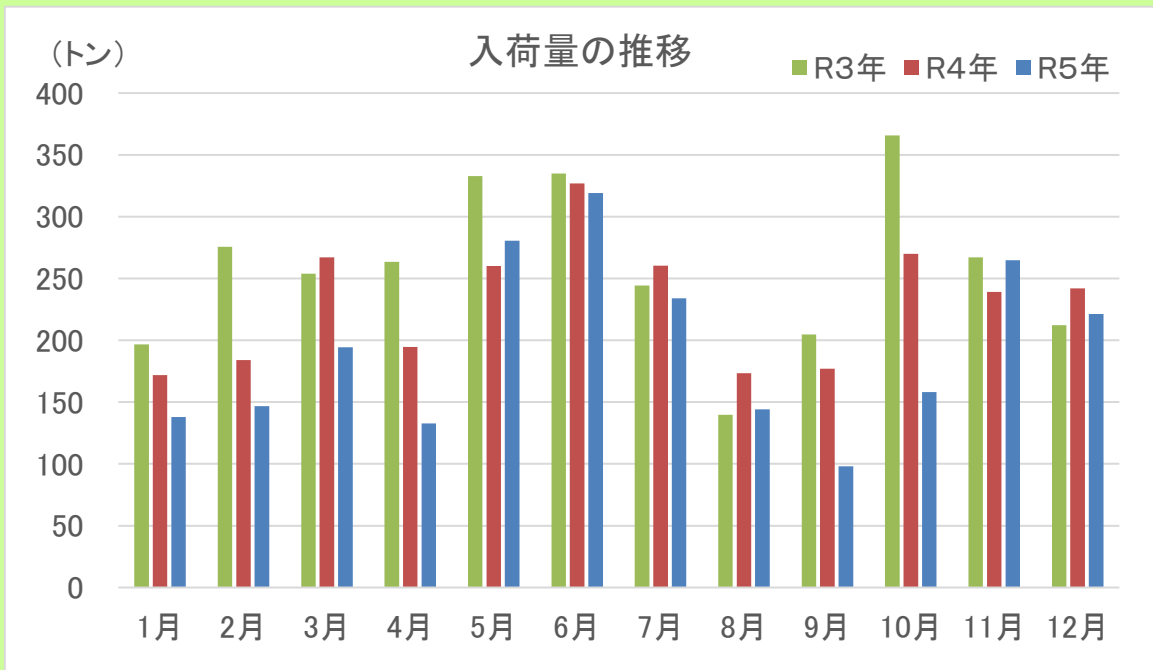
資料:令和5年青果物卸売市場調査報告



ブロッコリーの動向

〇年により差があるものの、入荷量は8月から9月にかけて少なくなり、卸売価格が上昇する傾向が見られる。

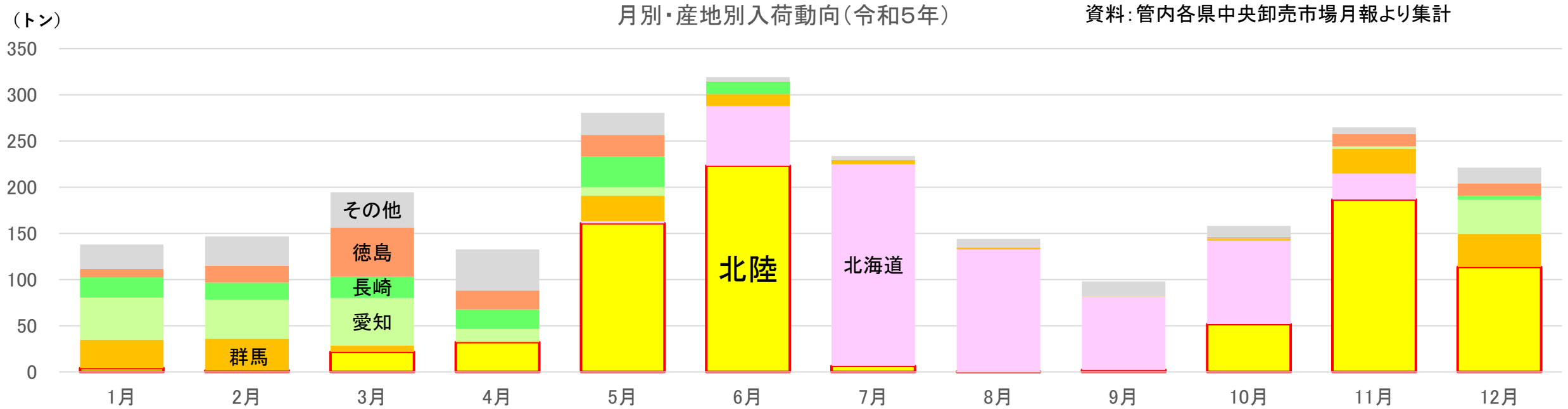
全国市場での取扱数量	北陸域内市場での取扱数量	北陸域内(4県)からの入荷シェア	北陸域外からの入荷シェア
90千トン	2千トン	36%	64%



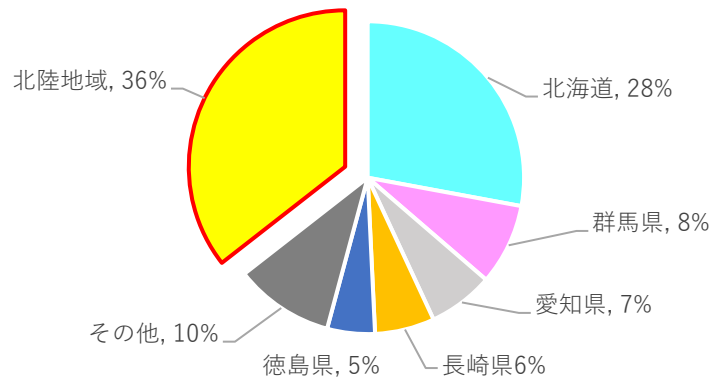
資料:管内各県中央卸売市場月報より集計

○入荷量は、北陸地域で36%、北海道で28%を占め、この2地域で約6割を占めている。

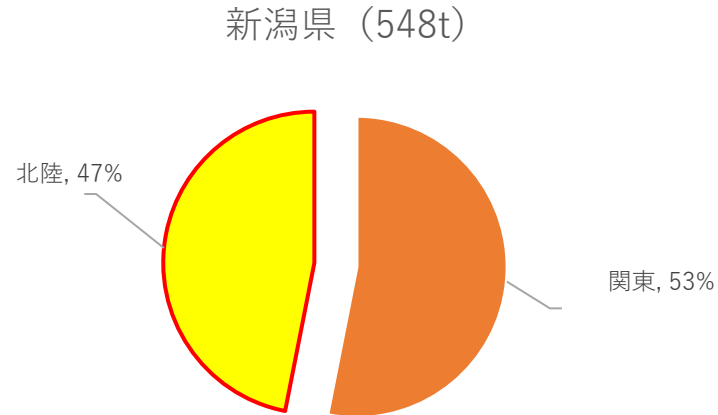
○新潟産は53%を関東、残りの47%を北陸へ出荷。石川産は約5割が北陸地域に出荷されている。



産地別取扱割合



(参考)主要消費地域への出荷量



資料:令和5年青果物卸売市場調査報告

